

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**

This Page Blank (uspto)

10/018031

10/018031

日本特許庁

PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

REC'D 18 AUG 2000

03.08.00

WIPO PCT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日  
Date of Application:

1999年 8月 5日

JP00105231

出願番号  
Application Number:

平成11年特許願第222587号

出願人  
Applicant(s):

松下電器産業株式会社

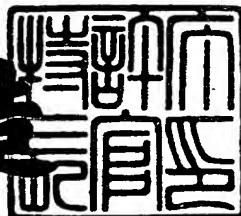
**PRIORITY  
DOCUMENT**

SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2000年 7月14日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2000-3055060

【書類名】 特許願

【整理番号】 2056010012

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 G11B 20/12

G11B 5/09

H04N 5/92

## 【発明者】

【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内

【氏名】 高平 良一

## 【特許出願人】

【識別番号】 000005821

【氏名又は名称】 松下電器産業株式会社

## 【代理人】

【識別番号】 100086737

## 【弁理士】

【氏名又は名称】 岡田 和秀

【電話番号】 06-6376-0857

## 【手数料の表示】

【予納台帳番号】 007401

【納付金額】 21,000円

## 【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9305280

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 磁気記録再生装置

【特許請求の範囲】

【請求項1】 入力信号を、予め規定しておいた信号1区画当たりのトラック数に対応するタイミングで行う変調処理により記録用信号に変換する入力信号変換手段と、

前記変調処理でのタイミングに対応するシリンダヘッドの回転数より低い回転数でシリンダヘッドを回転させて前記記録用信号を記録テープに記録する記録手段と、

を有することを特徴とする磁気記録再生装置。

【請求項2】 請求項1に記載の磁気記録再生装置であって、

前記記録テープに記録されている記録信号を、前記記録手段で設定されたヘッド回転数でヘッドシリンダを回転させて再生する再生手段と、

前記再生手段から出力される再生信号を、前記予め規定しておいた信号1区画当たりのトラック数に対応するタイミングで行う復調処理により出力信号に変換する出力信号変換手段と、

を更に有することを特徴とする磁気記録再生装置。

【請求項3】 請求項1または2に記載の磁気記録再生装置であって、

前記記録手段は、記録時の記録テープの送り速度を、設定したヘッドシリンダの回転数に対応して調整するものであることを特徴とする磁気記録再生装置。

【請求項4】 請求項3に記載の磁気記録再生装置であって、

前記記録手段は、前記予め規定しておいた信号1区画当たりのトラック数をこのトラック数の約数で除算することで設定される削減トラック数に、前記信号1区画が分割されるように、シリンダヘッドの回転数を設定するものであることを特徴とする磁気記録再生装置。

【請求項5】 請求項4に記載の磁気記録再生装置であって、

第1の記憶手段と、

前記予め規定しておいた信号1区画当たりのトラック数に対応する書き込みタイミングで、前記記録用信号を前記第1の記憶手段に書き込む第1の書き込み制御手

段と、

前記第1の記憶手段に記憶されている前記記録用信号を、前記削減トラック数に対応する読み出しタイミングで読み出して、前記記録手段に供給する第1の読み出制御手段と、

を更に有することを特徴とする磁気記録再生装置。

【請求項6】 請求項5に記載の磁気記録再生装置であって、

前記第1の書き出し制御手段は、前記書き込みタイミングを微調整するものであることを特徴とする磁気記録再生装置。

【請求項7】 請求項5に記載の磁気記録再生装置であって、

前記第1の読み出制御手段は、前記読み出しタイミングを微調整するものであることを特徴とする磁気記録再生装置。

【請求項8】 請求項2ないし7のいずれかに記載の磁気記録再生装置であって、

前記再生手段は、再生時の記録テープの送り速度を、設定したヘッドシリンダの回転数に応じて調整するものであることを特徴とする磁気記録再生装置。

【請求項9】 請求項8に記載の磁気記録再生装置であって、

第2の記憶手段と、

前記再生信号を前記削減トラック数に対応する書き込みタイミングで前記第2の記憶手段に書き込む第2の書き出し制御手段と、

前記第2の記憶手段に記憶されている前記再生信号を、前記予め規定しておいた信号1区画当たりのトラック数に対応する読み出しタイミングで読み出して、前記出力信号変換手段に供給する第2の読み出制御手段と、

を更に有することを特徴とする磁気記録再生装置。

【請求項10】 請求項9に記載の磁気記録再生装置であって、

前記第2の書き出し制御手段は、前記書き込みタイミングを微調整するものであることを特徴とする磁気記録再生装置。

【請求項11】 請求項9に記載の磁気記録再生装置であって、

前記第2の読み出制御手段は、前記読み出しタイミングを微調整するものであることを特徴とする磁気記録再生装置。

【請求項12】 請求項1ないし11のいずれかに記載の磁気記録再生装置であって、

前記入力信号変換手段は、複数の信号区画ごとに1つの信号区画分の入力信号を選択的に取り出して記録用信号に変換するものであることを特徴とする磁気記録再生装置。

【請求項13】 請求項12に記載の磁気記録再生装置であって、

前記記録手段は、入力信号変換手段により間引かれた信号区画分の入力信号の分だけ記録用信号の記録レートを低下させた状態で、前記記録用信号を記録テープに記録するものであることを特徴とする磁気記録再生装置。

【請求項14】 請求項13に記載の磁気記録再生装置であって、

前記出力信号変換手段は、前記再生信号を前記出力信号に変換する際に、前記記録手段が低下させた記録レートを元の記録レートに戻すものであることを特徴とする磁気記録再生装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、高記録レートに対応していない記録テープや装置を用いて記録することを可能とする磁気記録再生装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

図9は従来の磁気記録再生装置における記録に要する構成を、図10は記録における動作説明図を、図11は従来の磁気記録再生装置における再生に要する構成を、図12は再生における動作説明図を、それぞれ示している。

【0003】

この磁気記録再生装置において記録に要する構成は、入力される映像入力信号に対してアナログ処理及びディジタル変換化を行うアナログ信号処理手段101と、前記アナログ信号処理手段101にてディジタル化されたデータを、圧縮、誤り訂正符号付加処理を行うディジタル信号処理手段102と、圧縮、誤り訂正符号付加処理が施されたディジタルデータに対して記録テープ $\alpha$ 上に記録をする

ための変調処理を行う変調手段103と、前記変調手段103の出力を増幅する記録増幅手段104と、記録増幅手段104の出力を記録テープ $\alpha$ に記録するヘッドシリンダ106と、記録増幅手段104の出力をヘッドシリンダ106の左右ヘッドのどちらに供給するかの切り換えを行うスイッチング手段105と、制御手段107とで構成されている。

#### 【0004】

図10において、(10-a)は、映像入力信号中に含まれるフレーム信号である。(10-b)は、フレーム信号(10-a)の5倍の周期で記録テープ $\alpha$ 上に記録するための信号処理H. SW信号である。(10-c)は、変調手段103の出力である変調出力である。(10-d)は、信号処理H. SW信号(10-b)に同期した同一周期の信号であって、スイッチング手段105の切り換え制御およびヘッドシリンダ106の回転を制御するH. SW信号である。H. SW信号(10-d)は、その半周期が記録テープ $\alpha$ 上の1トラックを示している。(10-e)は、記録テープ $\alpha$ に記録される記録信号である。(10-f)は、記録テープ $\alpha$ に記録されているトラックおよびフレームの概念図である。

#### 【0005】

この磁気記録再生装置における再生に要する構成は、記録テープ $\alpha$ からヘッドシリンダ106とスイッチング手段105を介して取り込んだ再生信号を増幅する再生増幅手段111と、再生信号を復元する復調手段112と、伸長、誤り訂正処理などを行うディジタル信号処理手段113と、映像信号を装置外部に出力するためのアナログ信号出力手段114と、制御手段115とで構成されている。

#### 【0006】

図12において、(12-a)は、再生する際のフレーム信号である。(12-b)は、ヘッドシリンダ106の回転を制御し、その半周期が記録テープ $\alpha$ 上の1トラックを示すH. SW信号である。(12-c)は、記録テープ $\alpha$ 上に記録されている再生信号である。(12-d)は、ディジタル信号処理部113にトラックが変更されたことを伝達する信号処理H. SW信号であって、H. SW信号(12-c)に同期した同一周期の信号に設定されている。また、この例で

は、H. SW信号（12-b）や信号処理H. SW信号（12-c）はフレーム信号（12-a）の5倍の周期に設定されている。（12-e）は再生増幅手段114から出力される再生増幅出力である。（12-f）は、記録テープ $\alpha$ に記録されているトラックおよびフレームの概念図である。

## 【0007】

以上の構成を備えた磁気記録再生装置の動作は次の通りである。ここでは、放送方式NTSCの映像入力信号に対して、一般的なデジタルビデオ信号の規格である10トラック／フレームのトラック区分で記録再生動作を実現する場合を例にして説明する。

## 【0008】

まず、記録動作を説明する。映像入力信号はアナログ信号処理手段101に入力され、ここで、映像入力信号のペデスタル・レベルなどを一定レベルに固定したうえで、輝度信号と色信号や色差信号とに分離されてデジタル信号に変換される。その際、アナログ信号処理手段101は映像入力信号からフレーム信号（10-a）を生成して、デジタル信号処理手段102と制御手段107とに供給する。フレーム信号（10-a）は、デジタル信号処理手段102とアナログ信号処理手段101との間で操作のタイミングをとるためや、メカニズム部（スイッチング手段105やヘッドシリンダ106等）とアナログ信号処理手段101との間で動作のタイミングをとるために作成される。

## 【0009】

上記フレーム信号（10-a）が入力される制御手段107では、より詳細なタイミング制御のために、フレーム信号（10-a）を基にしてヘッドシリンダ106のヘッド切り換えタイミングを示す信号処理H. SW信号（10-b）を作成して、変調手段103とに供給する。同様に、制御手段107はヘッド回転数の基準となるH. SW信号（10-d）を作成して、ヘッドシリンダ106とスイッチング手段105に供給する。H. SW信号（10-d）と信号処理H. SW信号（10-b）とは、上述したように互いに同期した同周期の信号に設定されている。信号処理H. SW信号（10-b）やH. SW信号（10-d）の周波数（回転数）については後述する。

## 【0010】

アナログ信号処理手段101から出力されるディジタル映像信号はディジタル信号処理手段102で圧縮、誤り訂正符号付加処理されたのち、変調手段103で記録テープ $\alpha$ の特性に応じたエネルギー分布となるよう変調される。

## 【0011】

ここで、変調手段103の出力である変調出力(10-c)は、フレーム信号(10-a)の周期(周波数)に対応した出力とする。すなわち、放送方式NTSCの場合、フレーム信号(10-a)の周波数は29.97Hzとなるので、信号処理H.SW信号(10-b)の周波数をフレーム信号(10-a)の5倍の周波数である149.85Hzにすることで、変調出力(10-c)を10トラック/フレームのトラック区分に適応した出力とする。

## 【0012】

変調出力(10-c)に対して記録増幅手段104で記録テープ $\alpha$ の性能を最大限に生かせるように記録電流等の設定が行われたのち、スイッチング手段105に供給される。スイッチング手段105は、H.SW信号(10-d)の周波数に応じて次のような切り換えを行う。すなわち、スイッチング手段105は、ヘッドシリンダ106のヘッドL, R(ヘッドシリンダ106の周面の径方向両端に設けられている)に対して交互に変調出力(10-c)を供給するように切り換え制御している。そして、その切り換え周期をH.SW信号(10-d)の半周期に同期させている。

## 【0013】

以上のようなスイッチング手段105による切り換え動作を行うとともに、ヘッドシリンダ106の回転数をH.SW信号(10-d)に同期させる。つまり、H.SW信号(10-d)はヘッドシリンダ106の回転基準となっており、その半周期が1トラック(一方のヘッドL<sub>OR</sub>Rの記録配分)になる。この状態で、記録テープ $\alpha$ に変調信号(10-c)を書き込むことで、記録テープ $\alpha$ に、映像入力信号の5倍の周期で記録信号(10-e)として記録する。

## 【0014】

次に再生動作を説明する。機器内部もしくは外部で発生させるフレーム信号(

12-a)を基にして、制御手段115は、ヘッドシリンダ106のヘッド切り換えタイミングを示す信号処理H. SW信号(12-d)と、H. SW信号(12-b)とを生成する。そして、信号処理H. SW信号(12-d)を復調手段112に供給し、H. SW信号(12-b)をヘッドシリンダ106とスイッチング手段105とに供給する。

#### 【0015】

この状態で、ヘッドシリンダ106を回転させて、記録テープ $\alpha$ の記録信号(10-e)を再生する。このとき、ヘッドシリンダ106の回転数やスイッチング手段105の切換周期をH. SW信号(12-b)に同期させることで、記録信号(10-e)をその信号形態で再生する。すなわち、記録信号(10-e)は上述したように、10トラック/フレームのトラック区分となって記録テープ $\alpha$ に記録されている。そこで、ヘッドシリンダ106やスイッチング手段105に供給するH. SW信号(12-b)を、フレーム信号(12-a)【放送方式NTSCの場合、29.94Hz】の5倍周期の信号(放送方式NTSCの場合、149.85Hz)とすることで、記録信号(10-e)をそのトラック区分(10トラック/フレーム)に適応した状態で再生し、その再生信号(12-c)を再生増幅手段111に供給する。

#### 【0016】

再生増幅手段111は、入力される再生信号(12-c)に増幅処理等を行ったのち、その再生増幅出力(12-e)を復調手段112に供給する。復調手段112は、記録の際に記録テープ $\alpha$ の特性に応じて実施した変調処理を復調する処理を行って、ディジタル信号処理手段113に供給する。このとき、復調手段112は、信号処理H. SW信号(12-d)【H. SW信号(12-b)に同期した同周期の信号】に対応させて復調出力を生成することで、復調出力をフレーム信号(12-a)の周期に対応して10トラック/フレームのトラック区分の信号形態とする。

#### 【0017】

ディジタル信号処理手段113は、入力される復調出力に対して誤り訂正処理や、誤り修整処理と圧縮データの伸長処理等を行ってアナログ信号出力処理手段

114に供給する。このとき、ディジタル信号処理手段113は、制御手段115から供給されるフレーム信号(12-a)に同期して信号処理を行う。

#### 【0018】

アナログ信号出力処理手段114は、入力されるディジタル信号処理手段113の出力をアナログ信号に変換して装置外部へ再生映像信号として出力する。

#### 【0019】

##### 【発明が解決しようとする課題】

この磁気記録再生装置においては、次のような課題がある。すなわち、上述したように、一般的なディジタルビデオ信号の記録再生方式では、10トラック／フレームという高トラック区分での記録再生動作が要求され、このような要求に応じるためにヘッドシリンダ106を149.85Hzという高速度で回転させる必要がある。しかしながら、このようなヘッドシリンダ106の高速回転を精度高く維持するためには、高精度なメカニズムが必要となり、その分、磁気記録再生装置の製造コストを上昇させていた。

#### 【0020】

また、高速度なヘッドシリンダ106を支えるメカニズムを高精度に維持するために、使用中におけるメンテナンスにも手間がかからざるを得ず、このことが磁気記録再生装置のランニングコストを上昇させる要因になっていた。

#### 【0021】

さらにまた、記録テープ $\alpha$ においても、10トラック／フレームという高トラック区分に対応しなければならず、このことが記録テープ $\alpha$ の製造コストを上昇させる要因になっていた。

#### 【0022】

以上のように、従来の磁気記録再生装置では、装置そのものが高価になるうえ、使用する記録テープも高価になり、さらには、メカニズムのメンテナンス費用が高価となって使用者に制約がかかることから、汎用的な安価なテープとメカニズムでのデジタル記録再生が行える磁気記録再生装置が要望されている。

#### 【0023】

本発明は、このような要望に応えて、製造コストも安価で、メンテナンス費用

も低く抑えることができるデジタル磁気記録再生装置の提供を目的とする。

【0024】

【課題を解決するための手段】

本発明は、磁気記録再生装置において、入力信号を、予め規定しておいた信号1区画当たりのトラック数に対応するタイミングで行う変調処理により記録用信号に変換する入力信号変換手段と、前記変調処理でのタイミングに対応するシリンドラヘッドの回転数より低い回転数でシリンドラヘッドを回転させて前記記録用信号を記録テープに記録する記録手段とを有して、上記課題を解決している。

【0025】

【発明の実施の形態】

本発明の請求項1に記載の発明は、入力信号を、予め規定しておいた信号1区画当たりのトラック数に対応するタイミングで行う変調処理により記録用信号に変換する入力信号変換手段と、前記変調処理でのタイミングに対応するシリンドラヘッドの回転数より低い回転数でシリンドラヘッドを回転させて前記記録用信号を記録テープに記録する記録手段とを有しており、これにより次のような作用を有する。すなわち、ヘッドシリンドラを回転させる機構の精度はヘッド回転数に左右されるので、ヘッドシリンドラの回転数を、記録用信号作成時に規定している回転数より低くする本発明の構成では、その分、前記回転機構に要求される精度も低くなる。そのため、本発明では、その分、ヘッドシリンドラを回転させる機構の精度を下げてコストダウンを図るこができる。また、ヘッドシリンドラを高回転で回転させるためには、高精度なメンテナンスを定期的に行う必要があるが、本発明では、ヘッドシリンドラの回転数を、前記変調処理に対応する回転数より低くしているので、そのようなメンテナンスを必要とせず、その分でもコストダウンを図ることができる。

【0026】

本発明の請求項2に記載の発明は、請求項1に記載の磁気記録再生装置であって、前記記録テープに記録されている記録信号を、前記記録手段で設定されたヘッド回転数でヘッドシリンドラを回転させて再生する再生手段と、前記再生手段から出力される再生信号を、前記予め規定しておいた信号1区画当たりのトラック

数に対応するタイミングで行う復調処理により出力信号に変換する出力信号変換手段とを更に有することに特徴を有しており、これにより次のような作用を有する。すなわち、請求項1の構成で、記録テープに記録した記録用信号を正確に再生することができる。そして、再生時には、ヘッドシリンダの回転数を、記録用信号作成時や出力信号作成時に規定する回転数より低くすることで、その分、シリンダヘッドの回転機構に要求される精度も低くできる。そのため、ヘッドシリンダを回転させる機構の精度を下げてコストダウンを図ることも、また、ヘッドシリンダのメンテナンスを簡略化することもできて、さらにコストダウンを図ることができる。

#### 【0027】

本発明の請求項3に記載の発明は、請求項1または2に係る磁気記録再生装置であって、前記記録手段は、記録時の記録テープの送り速度を、設定したヘッドシリンダの回転数に対応して調整するものであることに特徴を有しており、これにより次のような作用を有する。すなわち、テープ送り速度を一定にした状態で、ヘッドシリンダの回転数を下げれば、記録テープ上に形成される記録トラックのトラック間隔（テープ長手方向に隣接する記録トラックの間隔）が必要以上に広くなり、記録に要する記録テープの長さが増大してテープの使用効率を悪化させる等の不都合が生じる。これに対して、本発明では、ヘッドシリンダの回転数が遅くなっても、それに応じてテープ送り速度を調整する（遅くする）ことで、上記不都合が生じるのを防止できる。

#### 【0028】

本発明の請求項4に記載の発明は、請求項3に係る磁気記録再生装置であって、前記記録手段は、前記予め規定しておいた信号1区画当たりのトラック数をこのトラック数の約数で除算することで設定される削減トラック数に、前記信号1区画が分割されるように、シリンダヘッドの回転数を設定するものであることに特徴を有しており、これにより次のような作用を有する。すなわち、記録テープ上で各信号1区画を構成する記録トラックそれぞれが整数個のトラック分割領域に分割される。そして、記録用信号作成時において各記録トラック毎に配分されるべく作製された記録用信号の信号領域が、各記録トラックを構成するトラック

分割領域それぞれに記録配置されることになる。そのため、記録用信号は、記録テープ上の各トラック分割領域に精度高く振り分けられて記録されることになり、記録精度を良好な状態に維持することができる。

#### 【0029】

本発明の請求項5に記載の発明は、請求項4に係る磁気記録再生装置であって、第1の記憶手段と、前記予め規定しておいた信号1区画当たりのトラック数に対応する書き込みタイミングで、前記記録用信号を前記第1の記憶手段に書き込む第1の書き制御手段と、前記第1の記憶手段に記憶されている前記記録用信号を、前記削減トラック数に対応する読み出しタイミングで読み出して、前記記録手段に供給する第1の読み制御手段とを更に有することに特徴を有しており、これにより次のような作用を有する。すなわち、本発明では、入力信号変換手段で想定するヘッドシリンダの回転数と記録手段で実際に記録する際のヘッドシリンダの回転数とは互いに異なることになる。そのため、入力信号変換手段で作製した記録用信号を精度高く記録手段に送って記録テープに記録するためには、入力信号変換手段から記録用信号を出力するタイミングと、記録手段に記録用信号を入力するタイミングとを、それぞれ個別に調整する必要がある。そこで、本発明では、入力信号変換手段と記録手段との間に、バッファメモリとなる第1の記憶手段を設けるとともに、第1の記憶手段に記録用信号を書き込むタイミング（第1の書き制御手段で制御するタイミング）を、前記予め規定しておいた信号1区画当たりのトラック数に対応する書き込みタイミングとする。さらに、この第1の記録手段から記録用手段を読み出すタイミング（第1の読み制御手段で制御するタイミング）を前記削減トラック数に対応する読み出しタイミングとする。これにより、入力信号変換手段と記録手段との間で精度高く記録用信号を送受することが可能となる。

#### 【0030】

本発明の請求項6に記載の発明は、請求項5に係る磁気記録再生装置であって、前記第1の書き制御手段は、前記書き込みタイミングを微調整するものであることに特徴を有しており、これにより次のような作用を有する。すなわち、第1の書き制御手段によりその書き込みタイミングを微調整することで、記録テープ

上に設けたトラック分割領域の位置（記録トラック上でのトラック分割領域の位置であって、データ位置を示す）を任意に調整することができるようになる。したがって、記録テープを再生する時にオン・トラックしないサーチ動作時などにおいても、データを獲得し易いように記録トラック上にデータを配置することができるようになる。

### 【0031】

本発明の請求項7に記載の発明は、請求項5に係る磁気記録再生装置であって、前記第1の読み出し制御手段は、前記読み出しタイミングを微調整するものであることに特徴を有しており、これにより次のような作用を有する。すなわち、第1の読み出し制御手段によりその読み出しタイミングを微調整することで、記録テープ上に設けたトラック分割領域の位置（データ位置）を任意に調整することができるようになる。したがって、記録テープを再生する時にオン・トラックしないサーチ動作時などにおいても、データを獲得し易いように記録トラック上にデータを配置することができるようになる。なお、請求項6と請求項7とは、同時に実施してもよいのはいうまでもない。

### 【0032】

本発明の請求項8に記載の発明は、請求項3ないし7のいずれかに係る磁気記録再生装置であって、前記再生手段は、再生時の記録テープの送り速度を、設定したヘッドシリンダの回転数に応じて調整するものであることに特徴を有しており、これにより次のような作用を有する。すなわち、請求項3に係る磁気記録再生装置で記録テープに記録された記録用信号テープを精度高く再生することができるようになる。

### 【0033】

本発明の請求項9に記載の発明は、請求項8に係る磁気記録再生装置であって、第2の記憶手段と、前記再生信号を前記削減トラック数に対応する書き込みタイミングで前記第2の記憶手段に書き込む第2の書き込み制御手段と、前記第2の記憶手段に記憶されている前記再生信号を、前記予め規定しておいた信号1区画当たりのトラック数に対応する読み出しタイミングで読み出して、前記出力信号変換手段に供給する第2の読み出し制御手段とを更に有することに特徴を有しており、

これにより次のような作用を有する。すなわち、本発明では出力信号変換手段で想定するヘッドシリンダの回転数と、再生手段で実際に再生する際のヘッドシリンダとは互いに異なることになる。そのため、再生手段で再生した再生出力を精度高く出力信号変換手段に送って、出力信号に変換するためには、再生手段で再生した記録用信号を出力するタイミングと、出力信号変換手段に記録用信号を入力するタイミングとを、それぞれ個別に調整する必要がある。そこで、本発明では、再生手段と出力信号変換手段との間に、バッファメモリとなる第2の記憶手段を設けるとともに、第2の記憶手段に再生信号を書き込むタイミング（第2の書き制御手段で制御するタイミング）を、前記削減トラック数に対応する書き込みタイミングとする。さらに、この第2の記憶手段から再生信号を読み出すタイミング（第2の読み出制御手段で制御するタイミング）を前記予め規定しておいた信号1区画当たりのトラック数に対応する読み出しタイミングとする。これにより、再生手段と出力信号変換手段との間における精度高い記録用信号の送受が可能となる。

#### 【0034】

本発明の請求項10に記載の発明は、請求項9に係る磁気記録再生装置であつて、前記第2の書き制御手段は、前記書き込みタイミングを微調整するものであることに特徴を有しており、これにより次のような作用を有する。すなわち、第2の書き制御手段によりその書き込みタイミングを微調整することで、記録の際に微調整した記録テープ上の記録トラックを元のタイミングに戻すことができ、出力信号変換手段に供給することができるようになる。したがって、記録テープ上の記録トラックを再生時にオン・トラックしないサーチ動作時などで、データを獲得し易い記録トラック上のデータ配置を実現できるようになる。

#### 【0035】

本発明の請求項11に記載の発明は、請求項9に係る磁気記録再生装置であつて、前記第2の読み出制御手段は、前記読み出しタイミングを微調整するものであることに特徴を有しており、これにより次のような作用を有する。すなわち、第2の読み出制御手段によりその読み出しタイミングを微調整することで、記録の際に微調整した記録テープ上の記録トラックを元のタイミングに戻すことができ、

出力信号変換手段に供給することができるようになる。したがって、記録テープ上の記録トラックを再生時にオン・トラックしないサーチ動作時などで、データを獲得し易い記録トラック上のデータ配置を実現できるようになる。

【0036】

なお、請求項10と請求項11とは、同時に実施してもよいのはいうまでもない。また、請求項5と、請求項6と、請求項10と、請求項11とは、いずれか一つを実施してもよいし、全てを含む複数の請求項を同時に実施してもよいのいうまでもない。

【0037】

本発明の請求項12に記載の発明は、請求項1ないし11のいずれかに係る磁気記録再生装置であって、前記入力信号変換手段は、複数の信号区画ごとに1つの信号区画分の入力信号を選択的に取り出して記録用信号に変換するものであることに特徴を有しており、これにより次のような作用を有する。すなわち、コマ抜き記録再生などの長時間記録再生を実現することができる。

【0038】

本発明の請求項13に記載の発明は、請求項12に係る磁気記録再生装置であって、前記記録手段は、入力信号変換手段により間引かれた信号区画分の入力信号の分だけ記録用信号の記録レートを低下させた状態で、前記記録用信号を記録テープに記録するものであることに特徴を有しており、これにより次のような作用を有する。すなわち、記録時における記録レートを下げる所以で、その分、記録レートの低い記録テープを用いることが可能となる。

【0039】

本発明の請求項14に記載の発明は、請求項13に係る磁気記録再生装置であって、前記出力信号変換手段は、前記再生信号を前記出力信号に変換する際に、前記記録手段が低下させた記録レートを元の記録レートに戻すものであることに特徴を有しており、これにより次のような作用を有する。すなわち、記録レートを元に戻すことで、入力信号と同じ信号形態を有する出力信号を形成することができるようになる。

## 【0040】

## (実施の形態1)

図1は本発明の実施の形態1である磁気記録再生装置における記録に要する構成を、図2は記録における動作説明図を、図3は本実施の形態の磁気記録再生装置における再生に要する構成を、図4は再生における動作説明図を、それぞれ示している。

## 【0041】

磁気記録再生装置において記録テープ $\alpha$ に記録する際に要する構成は、入力される映像入力信号に対してアナログ処理及びディジタル変換化を行うアナログ信号処理手段1と、アナログ信号処理手段1にてディジタル化されたデータを、圧縮、誤り訂正符号付加処理を行うディジタル信号処理手段2と、圧縮、誤り訂正符号付加処理が施されたディジタルデータに対して記録テープ $\alpha$ 上に記録するための変調処理を行う変調手段3と、変調手段3から出力された変調信号を書き込み、さらに書き込んだ変調信号を読み出す格納メモリ4と、格納メモリ4の書き込みを制御する書込制御手段5と、格納メモリ4の読み出しを制御する読出制御手段6と、格納メモリ4から読み出された変調出力を増幅する記録増幅手段7と、記録増幅手段7の出力を記録テープ $\alpha$ に記録するヘッドシリンダ8と、記録増幅手段7の出力をヘッドシリンダ8の左右ヘッドのどちらに供給するかの切り換えを行うスイッチング手段9と、各種信号記録処理を制御する制御手段10と、記録時の記録テープ $\alpha$ の走行を制御するテープ走行手段11とで構成されている。制御手段10は、特にヘッドシリンダ8の回転数を任意の回転数に制御している。

## 【0042】

図2において、(2-a)は、映像入力信号中に含まれるフレーム信号である。(2-b)は、フレーム信号に同期して記録テープ $\alpha$ 上に記録するための信号処理H. SW信号である。(2-c)は、変調手段3の出力(変調出力)である。(2-d)は、スイッチング手段9の切り換え制御、ヘッドシリンダ8の回転周期、および読出制御手段6の読み出しタイミングを制御するH. SW信号である。H. SW信号(2-d)は、その半周期が記録テープ $\alpha$ 上の1トラックを示

している。(2-e)は、記録テープ $\alpha$ 上に記録される記録信号である。(2-f)は、記録テープ $\alpha$ に記録されているトラックおよびフレームの概念図である。

#### 【0043】

この磁気記録再生装置における再生に要する構成は、記録テープ $\alpha$ からヘッドシリンダ8とスイッチング手段9とを介して取り込んだ再生信号を増幅する再生増幅手段31と、再生増幅手段31から出力される再生増幅出力を書き込み、さらに書き込んだ再生増幅出力を読み出す格納メモリ32と、格納メモリ32の書き込みを制御する書込制御手段33と、格納メモリ32の読み出しを制御する読み出制御手段34と、再生増幅出力を復調する復調手段35と、復調出力に対して伸長、誤り訂正処理などを行うディジタル信号処理手段36と、ディジタル信号処理手段36の出力である映像信号を装置外部に出力するためのアナログ信号処理手段37と、各種信号再生処理を制御する制御手段38と、再生時の記録テープ $\alpha$ の走行を制御するテープ走行手段39とで構成されている。

#### 【0044】

図4において、(4-a)は、再生する際のフレーム信号である。(4-b)は、ヘッドシリンダ8の回転を制御し、その半周期が記録テープ $\alpha$ 上の1トラックを示すH. SW信号である。(4-c)は、記録テープ $\alpha$ から再生された再生信号である。(4-d)は、読み出しタイミングや復調手段35の復調タイミングを制御する信号処理H. SW信号である。(4-e)は復調手段35から出力される復調出力である。(4-f)は、記録テープ $\alpha$ に記録されているトラックおよびフレームの概念図である。

#### 【0045】

なお、本実施の形態では、次のものから各手段が構成されている。すなわち、アナログ信号処理手段1と、ディジタル信号処理手段2と、変調手段3と、制御手段10とから入力信号変換手段が構成されている。記録増幅手段7と、スイッチング手段9と、ヘッドシリンダ8と、制御手段10と、テープ走行手段11とから記録手段が構成されている。書込制御手段5から第1の書込制御手段が構成されている。読み出制御手段6から第1の読み出制御手段が構成されている。格納メ

モリ4から第1の記憶手段が構成されている。アナログ信号処理手段37と、デジタル信号処理手段36と、復調手段35と、制御手段38とから出力信号変換手段が構成されている。再生増幅手段31と、スイッチング手段9と、ヘッドシリンダ8と、制御手段38と、テープ走行手段11とから再生手段が構成されている。書き出し制御手段33から第2の書き出し制御手段が構成されている。読み出し制御手段34から第2の読み出し制御手段が構成されている。格納メモリ32から第2の記憶手段が構成されている。

#### 【0046】

以上の構成を備えた磁気記録再生装置の記録／再生動作は次の通りである。ここでは、放送方式NTSCの映像信号に対して、一般的なデジタルビデオ信号の規格（10トラック／フレームの記録再生動作で実現されている）に適応するデジタル信号を作成したうえで、そのデジタル信号を、記録テープ $\alpha$ に対して5トラック／フレームの記録再生動作で記録再生する場合を例にして説明する。

#### 【0047】

まず、記録動作を説明する。外部から入力された映像入力信号はアナログ信号処理手段1に入力され、ここで、映像信号のペデスタル・レベルなどを一定レベルに固定したうえで、輝度信号と色信号や色差信号とに分離されてデジタル信号に変換される。その際、アナログ信号処理手段1は映像入力信号からフレーム信号（2-a）を生成して、デジタル信号処理手段2と制御手段10とに供給する。フレーム信号（2-a）は、デジタル信号処理手段2とアナログ信号処理手段1との間で操作のタイミングをとるためや、メカニズム部（ヘッドシリンダ8やスイッチング手段9等）とアナログ信号処理手段1との間で動作のタイミングをとるために作成される。

#### 【0048】

上記フレーム信号（2-a）が入力される制御手段10では、より詳細なタイミング制御のために、フレーム信号（2-a）を基にして変調タイミングや格納メモリ4に対する書き込みタイミングを示す信号処理H.SW信号（2-b）を作成して、変調手段3と書き出し制御手段5とに供給する。同様に、制御手段10はヘッドの切り換えタイミングの基準、ヘッド回転数の基準、および読み出し

タイミングの基準となるH. SW信号(2-d)を作成して、ヘッドシリンダ8、スイッチング手段9、および読出制御手段6に供給する。

【0049】

制御手段10は信号処理H. SW信号(2-b)として、フレーム信号(2-a)の5倍の周期でかつフレーム信号(2-a)に同期した信号を生成する。さらに、制御手段10は、H. SW信号(2-d)として、信号処理H. SW信号(2-b)の1/2倍の周期(フレーム信号(2-a)の2.5倍の周期)でかつフレーム信号(2-a)に同期した信号を生成する。

【0050】

信号処理H. SW信号(2-b)やH. SW信号(2-d)の周波数(回転数)については後述する。

【0051】

アナログ信号処理手段1から出力されるデジタル映像信号はデジタル信号処理手段2にて圧縮、誤り訂正符号付加処理されたのち、変調手段3にて記録テープ $\alpha$ の特性に応じたエネルギー分布となるよう変調される。ここで、変調手段3の出力である変調出力(2-c)は、フレーム信号(2-a)に同期した10トラック/フレームの出力形態に適応した状態で出力される。すなわち、放送方式NTSCの場合、フレーム信号(2-a)の周期は29.97Hzであるのにに対して、信号処理H. SW信号(2-b)の周期をフレーム信号(2-a)の5倍である149.85Hzにする。すると、信号処理H. SW信号(2-b)の半周期は記録テープ $\alpha$ 上の1トラックに対応しているので、変調出力(2-c)は、10トラック/フレームという一般的なデジタルビデオ信号の規格に適応した出力形態となって変調手段3から出力される。このように、変調手段3は、10トラック/フレームという一般的なデジタルビデオ信号の規格に適応した出力形態の変調出力(2-c)を作成して出力する。なお、この変調出力(2-c)が記録用信号に相当する。

【0052】

変調手段3から出力される変調出力(2-c)は、書き込み制御手段5により格納メモリ4に書き込まれる。このとき、書き込み制御手段5は、信号処理H. SW信号

(2-b) によって書き込みタイミングを制御するので、変調出力 (2-c) は、10 トラック/フレームという、一般的なディジタルビデオ信号の規格に適応した出力形態を維持した状態で格納メモリ4に書き込まれる。

#### 【0053】

格納メモリ4に書き込まれる変調出力 (2-c) は読出制御手段5により格納メモリ4から読み出されて記録増幅手段7に供給される。このとき、読出制御手段6は、H. SW信号 (2-d) によって読み出しタイミングを制御する。ここで、H. SW信号 (2-d) は、上述したように、信号処理H. SW信号の1/2倍の周期 (フレーム信号 (2-a) の2.5倍の周期) に設定されているので、変調出力 (2-c) は、一般的なディジタルビデオ信号の規格に適応した出力形態 (10 トラック/フレーム) ではなく、5 トラック/フレームという、その1/2の出力形態に適応した状態で格納メモリ4から読み出されて、記録増幅手段7に供給される。

#### 【0054】

記録増幅手段7は、読出制御手段6を介して入力される変調出力 (2-c) を記録テープ $\alpha$ の性能を最大限に生かせるように記録電流等の設定を行ったのち、スイッチング手段9に供給する。スイッチング手段9は、H. SW信号 (2-d) の周期に応じて次のような切り換えを行う。すなわち、スイッチング手段9は、ヘッドシリンダ8のヘッドL, R (ヘッドシリンダ8の周面の径方向両端に設けられている) に対して交互に変調出力 (2-c) を供給するように切り換え制御している。そして、その切り換え周期をH. SW信号 (2-d) の周期に同期させている。H. SW信号 (2-d) はスイッチング手段9の切換周期基準となっており、その半周期が1 トラック (一方のヘッドL<sub>OR</sub>Rの記録配分) になっている。

#### 【0055】

以上のようなスイッチング手段9による切り換え動作を行うとともに、シリンダヘッド8の回転数をH. SW信号 (2-d) に同期させる。すると、H. SW信号 (2-d) は、ヘッドシリンダ8の回転基準となるとともに、スイッチング手段9の切換周期基準となり、その半周期が1 トラック (一方のヘッドL<sub>OR</sub>Rの

記録配分)になる。そのため、ヘッドシリンダ8は、変調処理時に想定してた回転数(信号処理H. SW信号で規定される)の1/2の回転数で回転することになる。そして、この状態で、記録テープ $\alpha$ に変調信号(2-c)を書き込むことで、映像入力信号の5倍の周期の記録信号(2-e)として記録テープ $\alpha$ に記録する。

#### 【0056】

すると、変調出力(2-c)における2トラック分の情報が各トラックに記録されるので、10トラック/フレームの出力形態となった変調出力(2-c)は、5トラック/フレームの出力形態に変換されて記録テープ $\alpha$ に記録されることになる。

#### 【0057】

ここで、制御手段10や読出制御手段6は、5トラック/フレームという記録信号(2-e)の出力形態を次のようにして設定している。すなわち、10トラック/フレームにおけるトラック数である整数10を、その約数である2で除算することで得られる5を削減トラック数とする、5トラック/フレームの出力形態を設定する。これにより記録テープ $\alpha$ の各トラックは、それぞれ二つのトラック分割領域に分割され、各トラック分割領域には、次の信号が記録される。すなわち、変調出力(2-c)において記録トラックを構成するべく配置された信号領域が各トラック分割領域に整然と振り分けられることになり、記録再生精度を良好な状態に維持できる。

#### 【0058】

また、このとき、テープ走行手段11は、テープ送行速度を次のように設定している。すなわち、テープ送り速度を一定にした状態で、ヘッドシリンダ8の回転数を下げれば、記録テープ $\alpha$ 上に形成される記録トラックのトラック間隔(テープ長手方向に隣接する記録トラックの間隔)が必要以上に広くなり、記録に要する記録テープ $\alpha$ の長さが増大してテープの使用効率を悪化させる等の不都合が生じる。そこで、このテープ送行手段11では、ヘッドシリンダ8の回転数が遅くなっても、それに応じてテープ送り速度を調整する(遅くする)ことで、上記不都合が生じるのを防止している。

## 【0059】

ヘッドシリンダ8を回転させる機構（図示省略）の精度はヘッド回転数に左右される。これに対して、この磁気記録再生装置では、ヘッドシリンダ8の回転数を、変調出力（2-c）作成時に規定している回転数（信号処理H. SW信号により規定される）より低くしている（1/2）ので、その分、前記回転機構に要求される精度も低くなっている。ヘッドシリンダ8を回転させる機構の精度を下げてコストダウンを図ることができる。また、ヘッドシリンダ8を高回転で回転させるためには、高精度なメンテナンスを定期的に行う必要があるが、ヘッドシリンダ8の回転数を、変調処理に対応する回転数より低くしているので、そのようなメンテナンスを必要とせず、その分でもコストダウンを図ることができる。

## 【0060】

また、この磁気記録再生装置では、変調手段3と記録増幅手段7との間に、バッファメモリとなる格納メモリ4を設けている。そして、格納メモリ4に変調出力（2-c）を書き込むタイミングを変調処理等で予め規定しておいた1フレーム当たりのトラック数に対応する書き込みタイミング（信号処理H. SW信号で規定されるタイミング）となるように書き込み制御手段5で制御する。さらに、この格納メモリ4から記録増幅手段7に読み出すタイミングを、削減トラック数（5トラック/フレーム）に対応する読み出しタイミング（H. SW信号で規定されるタイミング）となるように、読み出し制御手段6で制御する。これにより、変調手段3と記録増幅手段7との間で精度高く変調出力を送受することが可能となる。

## 【0061】

さらには、書き込み制御手段5は、変調出力を格納メモリ4に書き込むタイミングを微調整できるように構成されている。そのため、記録テープ $\alpha$ を再生する時にオン・トラックしないサーチ動作時などにおいても、データを獲得し易いように記録トラック $\alpha$ 上にデータを配置することができる。また、読み出し制御手段6においても、変調出力を格納メモリ4から読み出すタイミングを微調整できるように構成されているので、書き込み制御手段5の書き込みタイミングを微調整する場合と同様の効果が得られる。

## 【0062】

次に、再生動作を説明する。再生動作時、制御手段38は、機器内部もしくは外部で発生させるフレーム信号(4-a)を基にH. SW信号(4-b)と信号処理H. SW信号(4-d)とを生成する。H. SW信号(4-b)は、ヘッドシリンダ8の回転周期基準となり、スイッチング手段9の切換周期タイミングの基準となり、書き込み周期タイミングの基準となる。信号処理H. SW信号(4-d)は格納メモリ32からの読み出制御手段34の読み出し周期タイミングの基準となり、復調手段35の復調タイミングの基準となる。

## 【0063】

制御手段38は以上のようにして生成したH. SW信号(4-b)を、ヘッドシリンダ8およびスイッチング手段9に供給し、信号処理H. SW信号(4-d)を読み出制御手段34および復調手段35に供給する。

## 【0064】

この状態で、ヘッドシリンダ8を回転させて、記録テープ $\alpha$ の記録信号(2-e)を再生する。このとき、ヘッドシリンダ8の回転数をH. SW信号(4-b)に同期させることで、記録信号(2-e)を再生する。すなわち、記録信号(2-e)は上述したように、5トラック/フレームの信号形態で記録テープ $\alpha$ に記録されている。そこで、ヘッドシリンダ8やスイッチング手段9に供給するH. SW信号(4-b)を、フレーム信号(4-a)〔放送方式NTSCの場合、29.94Hz〕の2.5倍周期の信号(放送方式NTSCの場合、74.85Hz)であって、記録時のH. SW信号と同周期)とすることで、記録信号(2-e)をその信号形態で再生し、その再生信号(4-c)を再生増幅手段31に供給する。

## 【0065】

再生増幅手段31は、入力される再生信号(4-c)に増幅処理等を行ったのち、その再生増幅出力を書き込み制御手段33に供給する。書き込み制御手段33は供給される再生増幅出力を、書き込みタイミングを制御しながら格納メモリ32に書き込む。ここで、書き込み制御手段33は、H. SW信号(4-b)によって書き込みタイミングを制御するので、再生増幅出力は、5トラック/フレームという記

録信号(2-e)の記録形態を維持した状態で格納メモリ32に書き込まれる。

【0066】

格納メモリ32に書き込まれる再生増幅出力は読出制御手段34により読み出しタイミングが制御されながら格納メモリ32から読み出されて復調手段35に供給される。ここで、読出制御手段34は、信号処理H.SW信号(4-d)によって読み出しタイミングが制御される。信号処理H.SW信号(4-d)は、H.SW信号(4-b)の2倍の周期(フレーム信号(4-a)の5倍)に設定されているので、再生増幅出力は、10トラック/フレーム(一般的なデジタルビデオ信号の規格)の出力形態に合致した信号形態で格納メモリ32から読み出されて、復調手段35に供給される。

【0067】

復調手段35は、記録の際に記録テープ $\alpha$ の特性に応じて実施した変調処理を復調する処理を行って、その復調出力(4-e)をデジタル信号処理手段22に供給する。このとき、復調手段35は、信号処理H.SW信号(4-d)に同期して復調処理を行うことで、記録信号(2-e)【5トラック/フレームの信号形態】を10トラック/フレームの出力形態(一般的なデジタルビデオ信号の規格)に適応した状態で復調出力(4-e)を生成して、デジタル信号処理手段36に供給する。

【0068】

デジタル信号処理手段36は、入力される復調出力(4-e)に対して誤り訂正処理や、誤り修整処理と圧縮データの伸長処理等を行ってアナログ信号出力処理手段37に供給する。このとき、デジタル信号処理手段36は、制御手段38から供給されるフレーム信号(4-a)に同期して信号処理を行う。

【0069】

アナログ信号出力処理手段37は、入力されるデジタル信号処理手段36の出力を、アナログ信号に変換して装置外部へ再生映像信号(出力信号)として出力する。

【0070】

このように、本実施の形態の磁気記録再生装置では、変調手段3により一般的

なディジタルビデオ信号の規格である10トラック/フレームのレートに合致する変調出力(2-c)を生成したうえで、その変調出力(2-c)を、上記出力形態の1/2まで削減したトラック数(削減トラック数)である5トラック/フレームの出力形態に変えて記録テープ $\alpha$ に記録する。したがって、記録テープ $\alpha$ の1トラックには、一般的なディジタルビデオ信号の出力形態における2トラック分の信号が記録されることになる。そして、再生時には、その復調時に、一般的なディジタルビデオ信号の規格である10トラック/フレームのレートに合致する復調出力(4-e)に戻して出力する。

#### 【0071】

このように、再生動作では、記録テープ $\alpha$ に記録された記録信号(2-e)を正確に再生することができる。そして、再生時には、ヘッドシリンダ8の回転数を、記録用信号作成時や出力信号作成時に規定する回転数より低くすることで、その分、シリンダヘッド8の回転機構に要求される精度も低くできる。そのため、ヘッドシリンダ8を回転させる機構の精度を下げてコストダウンを図ることも、また、ヘッドシリンダ8のメンテナンスを簡略化することもできて、さらにコストダウンを図ることができる。

#### 【0072】

また、テープ送行手段11は、再生時の記録テープ $\alpha$ の送り速度を、ヘッドシリンダ8の回転数に応じて調整することで、記録テープ $\alpha$ に記録された記録信号(2-e)を精度高く再生することができるようになる。

#### 【0073】

また、この磁気記録再生装置では、再生増幅手段31と、復調手段34との間に、バッファメモリとなる格納メモリ32を設けている。そして、格納メモリ32に再生信号(4-c)を書き込むタイミングを、再生信号(4-c)の信号形態(5トラック/フレーム)に対応する書き込みタイミング(H.SW信号(4-b)で規定されるタイミング)となるように書き込み制御手段33で制御する。さらに、この格納メモリ31から復調手段35に読み出すタイミングを、変調/復調処理で予め規定しておいた1フレーム当たりのトラック数(10トラック/フレーム)に対応する読み出しタイミング(信号処理H.SW信号(4-d)で規

定されるタイミング)となるように、読出制御手段34で制御する。これにより、復調手段35と再生増幅手段31との間で精度高く再生信号(4-c)を送受することが可能となる。

#### 【0074】

さらには、書込制御手段33は、再生信号(4-c)を格納メモリ32に書き込むタイミングを微調整できるように構成されている。そのため、記録の際に微調整した記録テープ上の記録トラックを元のタイミングに戻すことができ、記録テープ $\alpha$ を再生する時にオン・トラックしないサーチ動作時などにおいても、データを獲得し易いように記録トラック $\alpha$ 上にデータを配置することができる。また、読出制御手段34においても、再生信号(4-c)を格納メモリ32から読み出すタイミングを微調整できるように構成されているので、書込制御手段33の書き込みタイミングを微調整する場合と同様の効果が得られる。

#### 【0075】

このように、この磁気記録再生装置では、ヘッドシリンダ8がH. SW信号(2-d, 4-b)と同周期で回転し、その回転周期は、フレーム信号(2-a, 4-a)の周期の2.5倍となる。これに対して一般的なディジタルビデオ信号の規格で記録再生する場合には、従来例で説明したように、ヘッドシリンダ8の回転周期はフレーム信号(8-a, 10-a)の5倍となる。そのため、本実施の形態の磁気記録再生装置では、ヘッドシリンダ8の回転周期を従来の1/2にすることができる分、メカニズムの構成を簡略化して製造コストを下げることが可能となる。

#### 【0076】

また、高速度なヘッドシリンダ8を支えるメカニズムを高精度に維持するためには、使用中におけるメンテナンスにも手間がかからざるを得ず、このことが磁気記録再生装置のランニングコストを上昇させる要因になるが、本実施の形態では、ヘッドシリンダ8の回転周期を下げることができるので、上記のような手間のかかるメンテナンスを実施する必要がなくなり、その分、ランニングコストを下げることができる。

## 【0077】

また、この磁気記録再生装置では、上述したように、記録／再生精度を高めるために、記録テープ $\alpha$ の各トラックを記録／再生する際ににおいて、各トラック（ここには信号処理時の2トラック分の信号領域が記録される）内のデータの配置位置を調整している。このようなデータの配置位置の微調整は、格納メモリ4、32に対する書き込み、読み出しタイミングを、書き制御手段5、33や読み出制御手段6、34で調整することで実現している。しかしながら、このようなデータ位置の微調整を必要としないのなら、書き制御手段5、33および読み出制御手段6、34を含む格納メモリ4、32の構成を取り外してもよい。

## 【0078】

以上説明した実施の形態1の磁気記録再生装置では、記録テープ $\alpha$ の各トラックに、一般的なディジタルビデオ信号における2トラック分の信号を記録するため、各トラックに記録する情報量が2倍に増加してしまう結果、各トラックに書き込まれる情報密度が2倍となり、十分な情報を書き込めなくなることが危惧される。その場合には、記録テープ $\alpha$ を次のように設定することで対処できる。すなわち、一般的なディジタルビデオ信号の規格では、その記録再生に1/4インチ幅の記録テープ $\alpha_D$ が用いられる。これに対して、一般的なアナログビデオ信号の規格であるVHS規格では、1/2インチ幅の記録テープ $\alpha_A$ が用いられる。そこで、上記ディジタルビデオ信号の記録再生に、VHS規格の記録テープ $\alpha_A$ を用いることで記録テープ $\alpha_A$ のトラック長さを、ディジタル用の記録テープ $\alpha_D$ の2倍以上とし、これによって2トラック分の信号を十分なる情報密度でもって各トラックに記録することを可能とする。

## 【0079】

また、磁気記録再生装置においては、一般に、記録再生時の信号波長 $\lambda$ と、テープ速度 $V$ と、信号の周波数 $f$ との間に、 $\lambda = V/f$ という関係がある。この関係によれば、ヘッドシリンダ8の回転速度を低くすればするほど、それに比例してヘッドシリンダ8で記録／再生される信号の波長が短くなる。これに対して、一般に、磁気記録再生装置を構成する回路部品（特にデジタル信号処理に用いられる回路部品）では、扱う信号の波長が短くなる程、製造コストが上昇するとい

う特徴がある。そのため、ヘッドシリンダ8の回転周期を従来に比べて1/2にすることができる本実施の形態の磁気記録再生装置では、回路部品として、短い波長に対応した高価なものを用いる必要があり、その分、製造コストが高くなることが危惧される。

#### 【0080】

その場合であっても、例えば、本発明を一般的なアナログビデオ信号の規格であるVHS規格の磁気記録再生装置をディジタルビデオ信号の記録再生装置として適用することで、上記危惧を解消することができる。すなわち、一般的なディジタルビデオ規格で記録テープ $\alpha_D$ を記録再生する際に用いられるヘッドシリンダ $8_D$ の直径が21mmであるのに対して、VHS規格で記録テープ $\alpha_A$ を記録再生する際に用いられるヘッドシリンダ $8_A$ の直径は62mmであり、VHS用のヘッドシリンダ $8_A$ の方がおよそ3倍大きい。磁気記録再生装置においては、上述したように、記録再生時の信号波長 $\lambda$ と、テープ速度 $V$ と、信号の周波数 $f$ との間には、 $\lambda = V / f$ という関係があり、テープ速度 $V$ はヘッドシリンダの直径に比例する。そのため、両ヘッドシリンダ $8_D$ 、 $8_A$ を同周期で回転させた状態で記録再生する場合を比較すると、VHS用のヘッドシリンダ $8_A$ の記録再生波長 $\lambda$ は、ディジタルビデオ用のヘッドシリンダ $8_D$ の記録再生波長の約3倍長くなる。

#### 【0081】

したがって、本発明の構成を、VHS規格の記録再生装置に適用すると、ヘッドシリンダ8の回転速度低下による波長短縮化(1/2 $\lambda$ )と、ヘッドシリンダ8の大径化による波長伸長化(3 $\lambda$ )とが同時に生じる結果、記録再生波長は、一般的なディジタルビデオ信号の規格で記録再生した場合に比べて約1.5倍長く(3/2 $\lambda$ )することができる。そのため、反対に、回路構成を簡単にして製造コストを低減させることができる。

#### 【0082】

以上のように、本実施の形態では、復調、変調手段3、35において、一般的なディジタルビデオテープの規格で記録再生する場合に用いる復調、変調手段と同様の処理を実施したうえで、記録再生する際に、ヘッドシリンダ8の回転数を

落とす（ここでは1/2）ことにより、回路構成および、記録テープ $\alpha$ のコストダウンを図っている。

#### 【0083】

##### （実施の形態2）

図5は本発明の実施の形態2である磁気記録再生装置における記録に要する構成を、図6は記録における動作説明図を、図7は本実施の形態の磁気記録再生装置における再生に要する構成を、図8は再生における動作説明図を、それぞれ示している。

#### 【0084】

本実施の形態の構成は、基本的には、実施の形態1と同様の構成を備えており、実施の形態1と同一ないし同様の部分には、同一の符号を付し、それらについての説明は省略する。

#### 【0085】

図6において、（6-a）は、映像入力信号中に含まれるフレーム信号である。 （6-b）は、フレーム信号（6-a）に同期して記録テープ $\alpha$ 上に記録するための信号処理H. SW信号である。 （6-c）は、映像入力信号を変調手段3で変調処理することで生成される変調出力である。 （6-d）は、映像入力信号を構成する全てのフレームの中から、記録テープ $\alpha$ 上に記録するために選択的に取り出されるフレームを示す記録データ部である。 （6-e）は、格納メモリ4に対する書き込みに際して、記録データ部（6-d）で選択されるフレームに対してのみ選択的書き込み動作の許可を出す書き込み許可信号である。 （6-f）は、格納メモリ4に対する書き込み動作のリセットを制御する書き込みリセット信号である。 （6-g）はヘッドシリンダ8の回転、スイッチング手段9の切換タイミング、および読み出し制御手段6'の読み出しタイミングを制御するH. SW信号であって、その半周期が記録テープ $\alpha$ 上の1トラックを示している。 （6-h）は、格納メモリ4から読み出すタイミングを制御する読み出し許可信号である。 （6-i）は、格納メモリ4の読み出しタイミングを制御する読み出しリセット信号である。 （6-j）は、記録テープ $\alpha$ 上の1トラックに記録する信号を示す記録信号である。 （6-k）は、記録テープ $\alpha$ に記録されているトラックおよびフレームの

概念図である。

【0086】

図8において、(8-a)は、再生する際のフレーム信号である。(8-b)は、再生する際におけるヘッドシリンダ8の回転数、スイッチング手段9の切り換えタイミング、および書込制御手段33'の書き込みタイミングを制御し、その半周期が記録テープ $\alpha$ 上の1トラックを示すH. SW信号である。(8-c)は、記録テープ $\alpha$ から再生された再生信号である。(8-d)は、格納メモリ32に対する書き込みに際して、所定のフレームに対してのみ選択的に書き込み動作の許可を出す書込許可信号である。(8-e)は格納メモリ32に対する書き込み動作のリセットを制御する書込リセット信号である。(8-f)は、格納メモリ32に対する読み出しタイミングを制御する読み出許可信号である。(8-g)は、格納メモリ32の読み出しタイミングを制御する読み出リセット信号である。(8-h)は、読み出制御手段34'の読み出しタイミングや復調手段35の復調タイミングを制御する信号処理H. SW信号である。(8-i)は、復調手段35から出力される復調出力である。(8-j)は復調出力(8-i)中に含まれる有効データ部を示す再生有効データ部である。(8-k)は、記録テープ $\alpha$ に記録されているトラックおよびフレームの概念図である。

【0087】

次に、本実施の形態の磁気記録再生装置による最適な記録再生動作の一例を説明する。一般的なディジタル信号の記録再生で用いられる10トラック/フレームの信号形態で放送方式NTSCの映像入力信号を記録再生する場合、実施の形態1でも説明したように、放送方式NTSCのフレーム周期29.97Hzの5倍である149.85Hzでシリンダヘッド8を回転させて記録テープ $\alpha$ 上に記録する必要がある。実施の形態2では、このような、記録再生フォーマットにおいて、入力映像信号中において連続する二つのフレームのうちの一つを選択的に取り出してコマ抜き状態で記録再生することに第1の特徴がある。さらには、シリンダヘッド8の回転数を、一般的なディジタルビデオテープの記録再生時において実施されるシリンダヘッド8の回転数(149.85Hz)の、1/4である37.46Hzとすることに第2の特徴がある。

## 【0088】

まず、記録動作を説明する。外部から入力された映像入力信号はアナログ信号処理手段1に入力され、ここで、映像信号のペデスタル・レベルなどを一定レベルに固定したうえで、輝度信号と色信号や色差信号とに分離されてデジタル信号に変換される。その際、アナログ信号処理手段1は映像入力信号からフレーム信号(6-a)を生成して、デジタル信号処理手段2と制御手段10'とに供給する。フレーム信号(6-a)は、デジタル信号処理手段2とアナログ信号処理手段1との間で操作のタイミングをとるためや、ヘッドシリンダ8およびメカニズム部(ヘッドシリンダ8やスイッチング手段9等)とアナログ信号処理手段1との間で動作のタイミングをとるために作成される。放送方式NTSCの場合、フレーム周波数は29.97Hzであるので、フレーム信号(6-a)も29.97Hzに設定する。

## 【0089】

上記フレーム信号(6-a)が入力される制御手段10'では、より詳細なタイミング制御のために、フレーム信号(6-a)を基にして変調タイミングや格納メモリ4に対する書き込みタイミングを示す信号処理H.SW信号(6-b)を作成して、変調手段3と書込制御手段5'とに供給する。同様に、制御手段10'はヘッドの切り換えタイミングの基準、ヘッド回転数の基準、および読み出しタイミングの基準となるH.SW信号(6-g)を作成して、ヘッドシリンダ8、スイッチング手段9、および読出制御手段6'に供給する。

## 【0090】

制御手段10'は信号処理H.SW信号(6-b)として、フレーム信号(6-a)の5倍の周期でかつフレーム信号(6-a)に同期した信号(放送方式NTSCの場合には、149.85Hz)を生成する。さらに、制御手段10'は、H.SW信号(6-g)として、信号処理H.SW信号(6-b)の1/4倍の周期(フレーム信号(6-a)の1.25倍の周期)でかつフレーム信号(6-a)に同期した信号(37.46Hz)を生成する。

## 【0091】

アナログ信号処理手段1から出力されるデジタル映像信号はデジタル信号

処理手段2にて圧縮、誤り訂正符号付加処理されたのち、変調手段3にて記録テープ $\alpha$ の特性に応じたエネルギー分布となるよう変調される。ここで、変調手段3の出力である変調出力(6-c)は、フレーム信号(6-a)で規定されるフレーム長さを基にして、信号処理H. SW信号(6-b)に同期した10トラック/フレームの出力形態に適応して信号形態で出力される。すなわち、放送方式NTSCの場合、フレーム信号(6-a)の周期は29.97Hzであるので、信号処理H. SW信号(6-b)の周期をフレーム信号(6-a)の5倍である149.85Hzにする。すると、信号処理H. SW信号(6-b)の半周期はテープ上の1トラックに対応しているので、変調出力(6-c)は、10トラック/フレームという一般的なディジタルビデオ信号の規格に合致した信号形態となって変調手段3から出力される。このように、変調手段3は、10トラック/フレームという一般的なディジタルビデオ信号の規格に合致した信号形態の変調出力(6-c)を作成して出力する。

#### 【0092】

変調手段3から出力される変調出力(6-c)は、書き込み制御手段5'により格納メモリ4に書き込まれる。このとき、書き込み制御手段5'は、信号処理H. SW信号(6-b)によって書き込みタイミングを制御するので、変調出力(6-c)は、10トラック/フレームという、一般的なディジタルビデオ信号の規格に合致したレートを維持した状態で格納メモリ4に書き込まれる。

#### 【0093】

さらにこのとき、書き込み制御手段5'は制御手段10'から供給される書き込み許可信号(6-e)によりその書き込み動作が制御される。すなわち、書き込み許可信号(6-e)は、フレーム信号(6-a)でフレーム長さが規定される1フレーム毎に書き込み許可と書き込み不許可とを繰り返す信号形態となっているので、この書き込み許可信号(6-e)によりその書き込み動作が制御される書き込み制御手段5'は、連続する2フレーム分のデータから選択的に1フレームのデータを取り出して格納メモリ4に書き込むという、コマ抜き状態で格納メモリ4に変調出力(6-c)を書き込む。

## 【0094】

格納メモリ4に書き込まれるコマ抜き状態の変調出力(6-c)は、読み出制御手段6により格納メモリ4から読み出されて記録増幅手段7に供給される。このとき、読み出制御手段6'は、H. SW信号(6-g)によって読み出しタイミングを制御する。すなわち、H. SW信号(6-g)の半周期は記録テープα上の1トラックに対応しているので、H. SW信号(6-g)を、信号処理H. SW信号(6-b)の1/4倍の周期に設定することで、このH. SW信号(6-g)により規定されるトラック長さは、信号処理H. SW信号(6-b)で規定されるトラック長さの4倍になる。さらには、H. SW信号(6-g)で規定されるシリンドラヘッド8の回転数は、信号処理H. SW信号(6-b)で想定されるシリンドラヘッド8の回転数の1/4となる。そのため、変調出力(6-c)は、一般的なディジタルビデオ信号の規格である10トラック/フレームの信号形態ではなく、5トラック/フレームの信号形態で、かつ、各トラックの記録レートが変調時の1/2倍に変更された状態となって格納メモリ4から読み出されて、記録増幅手段7に供給される。

## 【0095】

記録増幅手段7は、読み出制御手段6'を介して入力される、記録レートが1/2倍となったコマ抜き状態の変調出力(6-c)を記録テープαの性能を最大限に生かせるように記録電流等の設定を行ったのち、スイッチング手段9に供給する。スイッチング手段9は、上述した信号形態を有するH. SW信号(6-g)の周期に応じて次のような切換を行う。すなわち、スイッチング手段9は、ヘッドシリンドラ8のヘッドL, R(ヘッドシリンドラ8の周面の径方向両端に設けられている)に対して交互に変調出力(6-c)を供給するように切換制御している。そして、その切換周期をH. SW信号(6-g)の周期に同期させている。H. SW信号(6-g)はスイッチング手段9の切換周期基準となっており、その半周期が1トラック(一方のヘッドL OR Rの記録配分)になっている。

## 【0096】

以上のようなスイッチング手段9による切換動作を行うとともに、ヘッドシリンドラ8の回転をH. SW信号(6-g)に同期させる。すると、H. SW信号(

6-g) は、スイッチング手段9の切換周期基準となるとともに、ヘッドシリンド8の回転基準となり、その半周期が1トラック（一方のヘッドL<sub>OR</sub>Rの記録配分）になる。この状態で、記録テープ $\alpha$ にコマ抜き状態の変調信号(6-c)を記録することで、映像入力信号の2.5倍の周期の記録信号(6-j)を、1フレーム/2フレームのレートでコマ抜きしたうえで、5トラック/フレームの信号形態にした状態で、記録テープ $\alpha$ に1/2倍の記録レートで記録する。

#### 【0097】

このように、変調手段3の出力周期と記録テープ $\alpha$ 上への書き込み周期とを変え、格納メモリ4にてこれらタイミングをあわすことにより、シリンドヘッド8の回転数を下げて記録波長を下げることができ、高い記録レートに対応していない記録テープ $\alpha$ および、磁気記録再生装置のメカニズムにも記録再生ができると同時にコマ抜き記録による監視記録などの長時間記録に、記録テープ $\alpha$ を対応させることができる。

#### 【0098】

また、ヘッドシリンド8の回転数を信号処理H. SW信号(6-b)で想定されるシリンドヘッド8の回転数の1/4としているので、その分、実施の形態1と同様、シリンドヘッド8に付随して必要となる構成を簡略化することができる。

#### 【0099】

次に、再生動作を説明する。再生動作時、制御手段38'は、機器内部もしくは外部で発生させるフレーム信号(8-a)を基にしてH. SW信号(8-b)と信号処理H. SW信号(8-h)とを生成する。H. SW信号(8-b)は、ヘッドシリンド8の回転基準となり、スイッチング手段9の切換タイミング基準となり、書き込みタイミングの基準となる。信号処理H. SW信号(8-h)は格納メモリ32からの読み出しタイミングの基準となり、復調手段35の復調タイミングの基準となる。

#### 【0100】

制御手段38'は以上のようにして生成したH. SW信号(8-b)を、ヘッドシリンド8、スイッチング手段9および書き込み制御手段33'に供給する。さら

に、制御手段38'は信号処理H. SW信号(8-h)を読み出制御手段34'および復調手段35に供給する。

#### 【0101】

この状態で、ヘッドシリンダ8を回転させて、記録テープ $\alpha$ の記録信号(6-j)を再生する。このとき、ヘッドシリンダ8の回転数をH. SW信号(8-b)に同期させることで、記録信号(6-j)を記録時と同じ信号形態で再生する。すなわち、記録信号(6-j)は、上述したように、映像入力信号を1フレーム/2フレームのレートでコマ抜きしたうえで、5トラック/フレームの信号形態で、しかも記録テープ $\alpha$ に変調時の1/2倍の記録レートで記録テープ $\alpha$ に記録されている。そこで、ヘッドシリンダ8やスイッチング手段9に供給するH. SW信号(8-b)を、上述した記録時の構成におけるH. SW信号(6-g)と同周期にすることで、記録信号(6-j)を同じ信号形態でかつ同じ記録レートで再生し、その再生信号(8-c)を再生増幅手段31に供給する。具体的には、H. SW信号(8-b)はフレーム信号(8-a)【放送方式NTSCの場合、29.97Hz】の1.25倍周期の信号(放送方式NTSCの場合、37.46Hz)に生成されており、このような周期のH. SW信号(8-b)に同期して記録信号(8-c)を作成する。

#### 【0102】

再生増幅手段31は、入力される再生信号(8-c)に増幅処理等を行ったのち、書き込み制御手段33'に供給する。書き込み制御手段33'は供給される再生増幅手段31の出力を、書き込みタイミングを制御しながら格納メモリ32に書き込む。ここで、書き込み制御手段33'は、H. SW信号(8-b)によって書き込みタイミングを制御するので、再生増幅手段31の出力は、記録信号(6-j)をその信号形態を維持したまま格納メモリ32に書き込まれる。

#### 【0103】

格納メモリ32に書き込まれる再生増幅手段31の出力は読み出制御手段34'により読み出しタイミングが制御されながら格納メモリ32から読み出されて復調手段35に供給される。ここで、読み出制御手段34'は、信号処理H. SW信号(8-h)によって読み出しタイミングが制御される。その際、信号処理H.

SW信号（8-h）は、上述したように、H. SW信号（8-b）の4倍の周期（フレーム信号（8-a）の5倍）に設定されているので、格納メモリ32からは、10トラック／フレーム（一般的なデジタルビデオ信号の規格）の出力形態に合致した信号形態の出力が読み出されて、復調手段35に供給される。

#### 【0104】

さらにこのとき、読み出制御手段34'は制御手段38'から供給される読み出許可信号（8-d）によりその読み出し動作が制御される。すなわち、格納メモリ31からは、5トラック／フレームの信号形態を有する再生信号（8-c）が、10トラック／フレームの信号形態に変換され、かつ記録レートが記録時の2倍に変更された状態になって出力される。そのため、格納メモリ32の出力は、1フレーム／2フレームのレートでコマ抜きされた状態となる。

#### 【0105】

これに対して、読み出許可信号（8-f）は、1フレーム毎に書き込み許可と書き込み不許可とを繰り返す信号形態となっているので、この書き込み許可信号（8-f）によりその読み出し動作が制御される読み出制御手段34'は、連続する2フレーム分のデータから有効なフレームのデータだけを選択的に取り出して格納メモリ32から読み出すという、コマ抜き状態の格納メモリ32の出力から有効な信号領域だけを選択的に格納メモリ32からデータを読み出すことになる。

#### 【0106】

復調手段35は、記録の際に記録テープ $\alpha$ の特性に応じて実施した変調処理を復調する処理を行って、その復調出力（8-i）をデジタル信号処理手段36に供給する。このとき、復調手段35は、信号処理H. SW信号（8-h）に同期して復調処理を行うことで、10トラック／フレームのレート（一般的なデジタルビデオ信号の規格）を維持した状態で復調出力（8-i）を生成して、デジタル信号処理手段36に供給する。

#### 【0107】

デジタル信号処理手段36は、入力される復調出力（8-i）に対して誤り訂正処理や、誤り修整処理と圧縮データの伸長処理等を行ってアナログ信号出力処理手段37に供給する。このとき、デジタル信号処理手段36は、制御手段

38から供給されるフレーム信号(8-a)に同期して信号処理を行う。

【0108】

アナログ信号出力処理手段37は、入力されるデジタル信号処理手段36の出力を、アナログ信号に変換して装置外部へ再生映像信号として出力する。

【0109】

このように、本実施の形態の磁気記録再生装置では、変調手段3により一般的なデジタルビデオテープの規格である10トラック/フレームのレートに合致する変調出力(6-c)を生成したうえで、その変調出力(6-c)を、上記出力形態の1/4である5トラック/フレームで、かつ1フレーム/2フレームというレートでコマ抜きしたうえで、記録テープ $\alpha$ に記録する。したがって、記録テープ $\alpha$ の1トラックには、一般的なデジタルビデオテープの出力形態における2トラック分の信号が記録されることになる。しかも、そのとき、1フレーム/2フレームというレートでコマ抜きされた状態で記録される。そして、再生時には、その復調時に、一般的なデジタルビデオテープの規格である出力形態10トラック/フレームに合致する復調出力(8-i)に戻して出力する。

【0110】

このとき、ヘッドシリンダ8は、H.SW信号(6-g, 8-b)と同じ回転数で回転し、その回転数は、フレーム信号(6-a, 8-a)の周期の1.25倍となる。これに対して一般的なデジタルビデオテープの規格で記録再生する場合には、従来例で説明したように、ヘッドシリンダ8の回転周期はフレーム信号(8-a, 10-a)の5倍となる。そのため、本実施の形態の磁気記録再生装置では、ヘッドシリンダ8の回転数を従来の1/4にすることができる分、メカニズムの構成を簡略化して製造コストを下げることが可能となる。

【0111】

また、高速度なヘッドシリンダ8を支えるメカニズムを高精度に維持するためには、使用中におけるメンテナンスにも手間がかからざるを得ず、このことが磁気記録再生装置のランニングコストを上昇させる要因になるが、本実施の形態では、ヘッドシリンダ8の回転周期を下げることができるので、上記のような手間のかかるメンテナンスを実施する必要がなくなり、その分、ランニングコストを

下げることができる。

【0112】

また、記録テープ $\alpha$ においても、変調時の1/2という比較的低い記録レートに対応すればよいので、その分、記録テープ $\alpha$ の製造コストを下げることができる。

【0113】

また、本実施の形態の磁気記録再生装置では、上述した記録／再生精度を高めるため、記録テープを再生する時にオン・トラックしないサーチ動作時などにおいてもデータを獲得し易いように記録トラック上にデータを配置する場合、各トラックに記録される2トラック分の信号（これは一般的なディジタルビデオ信号における2トラック分の信号を指す）を記録／再生する際ににおける相対的なタイミングを一致させる必要がある。具体的には、トラック上における2トラック分の信号どうしの互いの相対位置を微調整する必要がある。このような相対位置の微調整は、格納メモリ4、32に対する書き込み、読み出しタイミングを、書き込み制御手段5、33や読み出し制御手段6、34で調整することで実現できる。

【0114】

以上説明した実施の形態2の磁気記録再生装置においても、記録テープ $\alpha$ の各トラックに、一般的なディジタルビデオ信号における2トラック分の信号を記録するため、各トラックに記録する情報量が2倍に増加してしまう結果、各トラックに書き込まれる情報密度が2倍となり、十分な情報を書き込めなくなることが危惧される。その場合においても、実施の形態1と同様、磁気記録再生装置の機構や記録テープ $\alpha$ をVHS規格等の既存のアナログビデオ信号規格に合致したものとすることで、このような不都合を解消することができる。

【0115】

なお、以上説明した実施の形態では、フレーム当たりのトラック数を5トラックで構成した例で説明したが、その他シリンダ回転数と格納メモリ4、32の読み出しクロックを変えて1フレーム10トラックとしても同様に実施可能である。また、実施の形態2では、読み出リセット信号の周期を2フレーム周期としたが、1フレーム周期として同一データを2フレーム繰り返して読み出し全フレーム

有効データとしても同様に実施可能である。

【0116】

【発明の効果】

以上のように本発明によれば、高シリンダ回転数、高記録レート、短記録波長を必要とし、かつ、それに対応した専用のテープとメカニズムが必要なVTRフォーマットであっても、シリンダヘッドの回転数を低くし記録波長を下げることにより、高い記録レートに対応していない安価な汎用テープおよびメンテナンス費用も安価なメカニズムでの記録再生ができるという有利な効果が得られる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の実施の形態1である磁気記録再生装置の記録に要する構成図である。

【図2】

実施の形態1の記録時の動作を説明するタイムチャートである。

【図3】

実施の形態1の再生に要する構成図である。

【図4】

実施の形態1の再生時の動作を説明するタイムチャートである。

【図5】

本発明の実施の形態2である磁気記録再生装置の記録に要する構成図である。

【図6】

実施の形態2の記録時の動作を説明するタイムチャートである。

【図7】

実施の形態2の再生に要する構成図である。

【図8】

実施の形態2の再生時の動作を説明するタイムチャートである。

【図9】

従来例である磁気記録再生装置の記録に要する構成図である。

【図10】

従来例の記録時の動作を説明するタイムチャートである。

【図11】

従来例の再生に要する構成図である。

【図12】

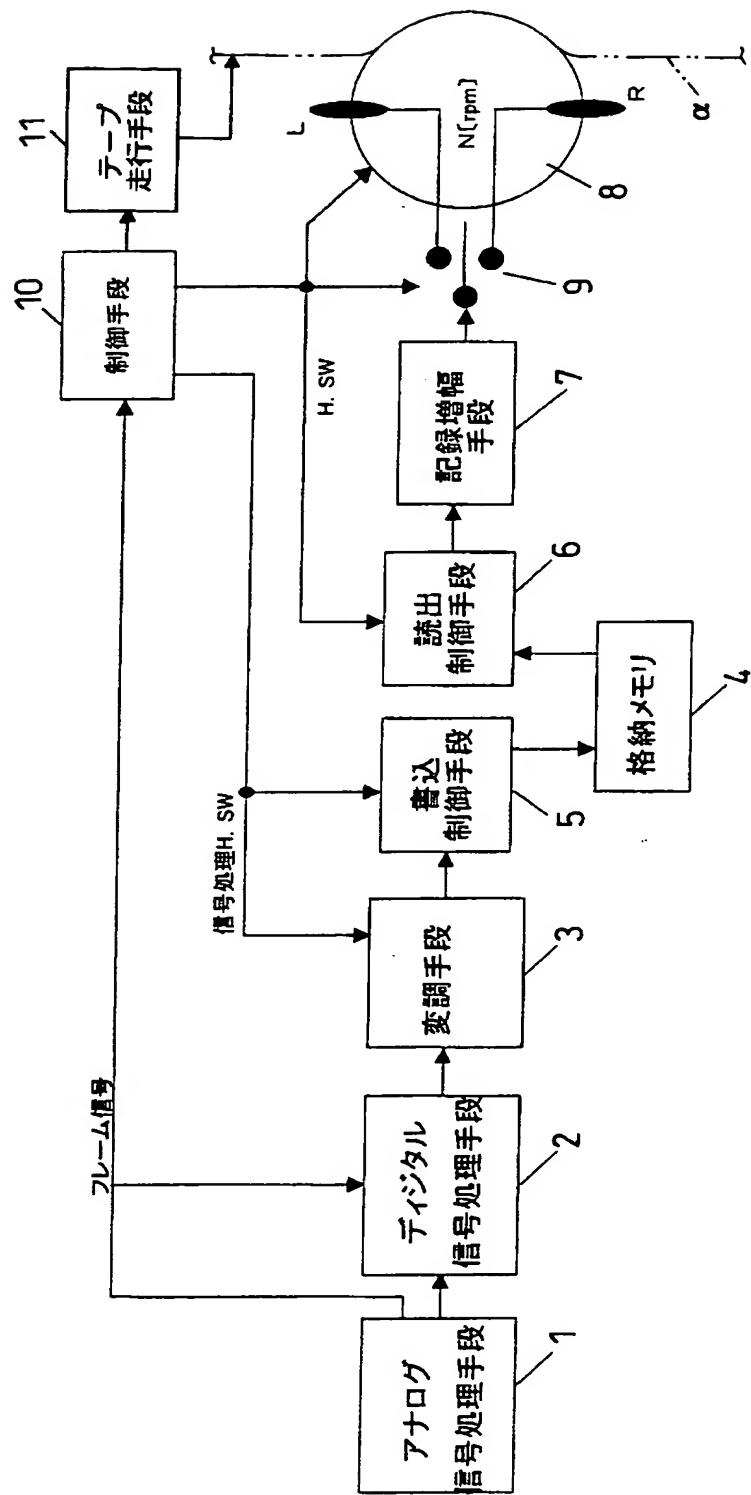
従来例の再生時の動作を説明するタイムチャートである。

【符号の説明】

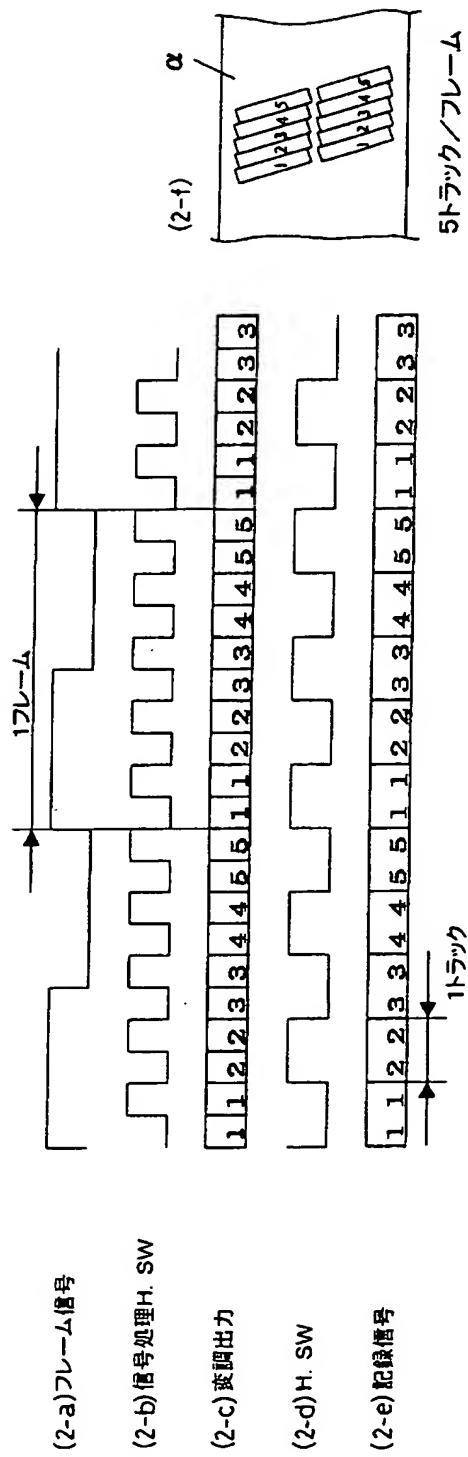
- 3 変調手段
- 4 格納メモリ
- 5 書込制御手段
- 6 読出制御手段
- 8 ヘッドシリンダ
- 10 制御手段
- 11 テープ走行手段
- 32 格納メモリ
- 33 書込制御手段
- 34 読出制御手段
- 35 復調手段
- 38 制御手段

【書類名】 図面

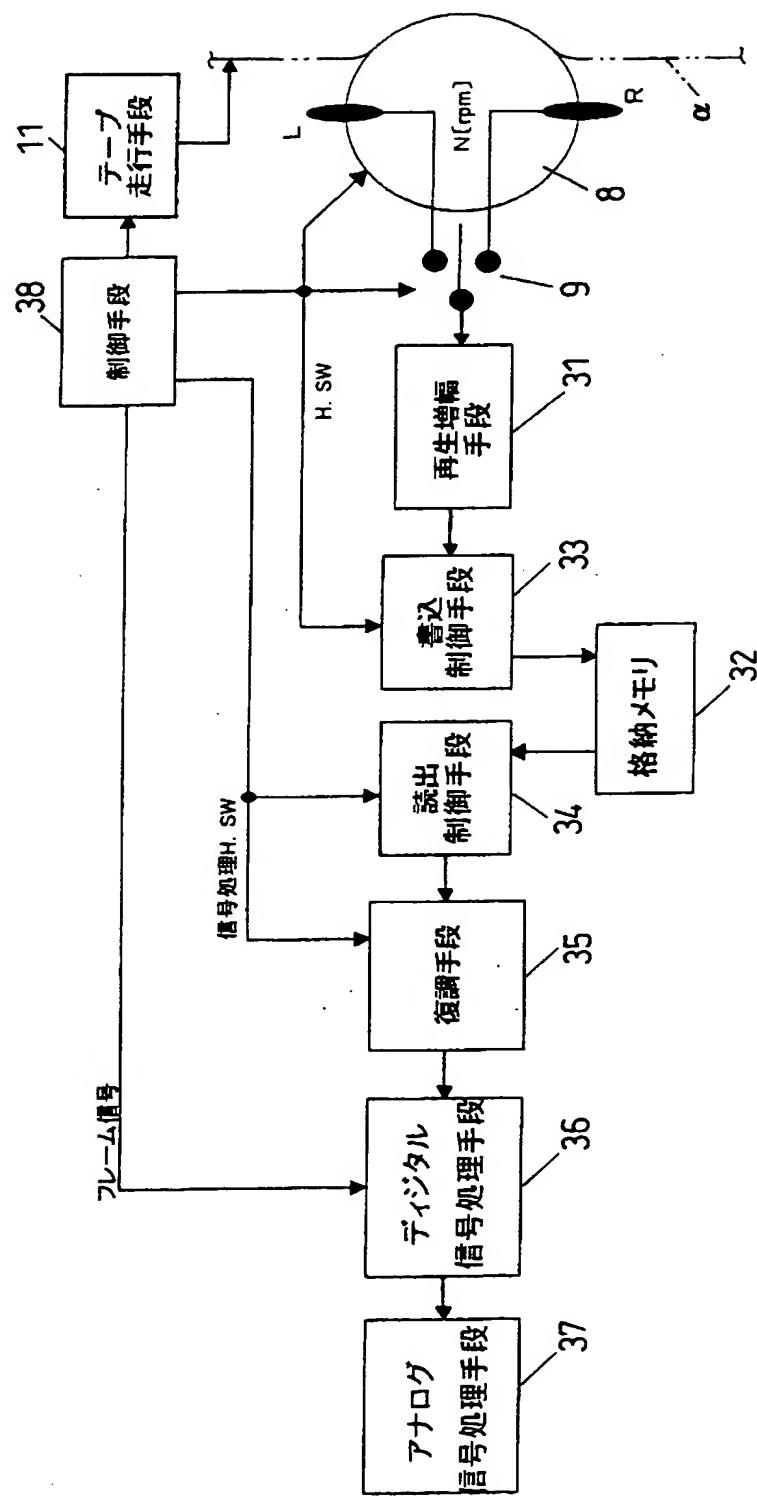
### 【図1】



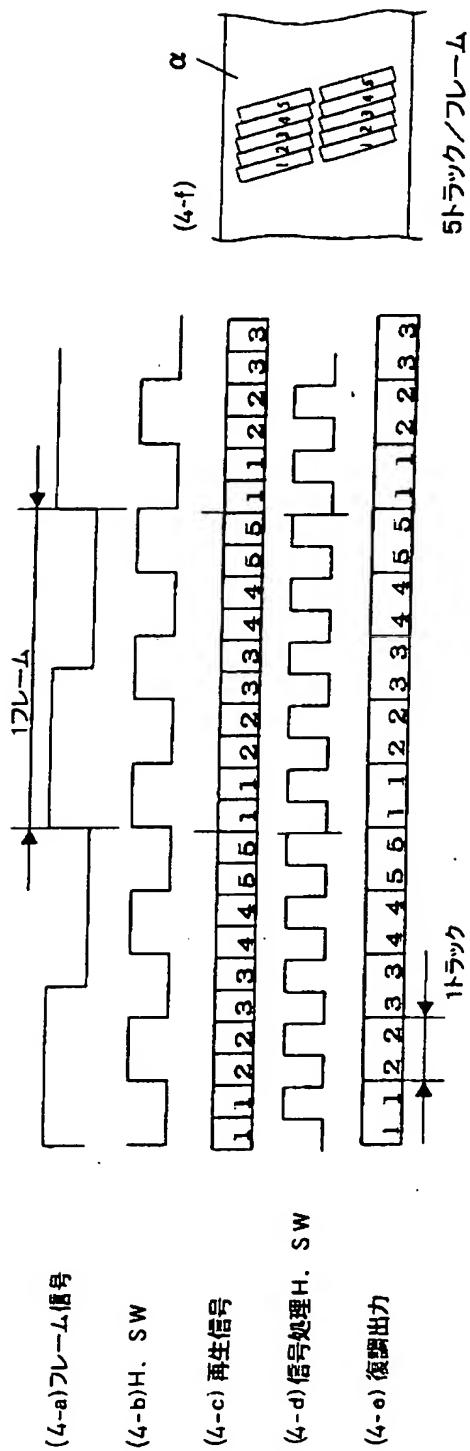
【図2】



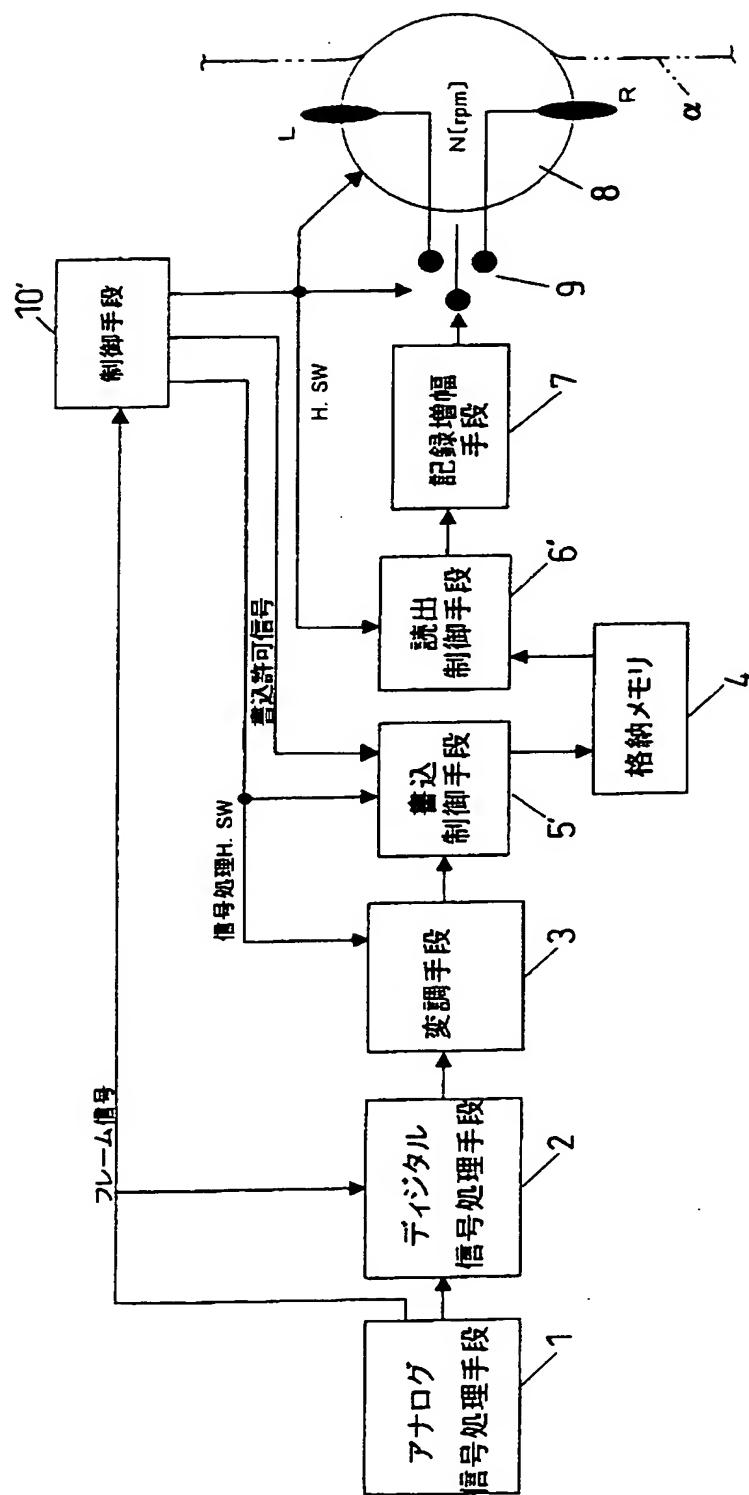
### 【図3】



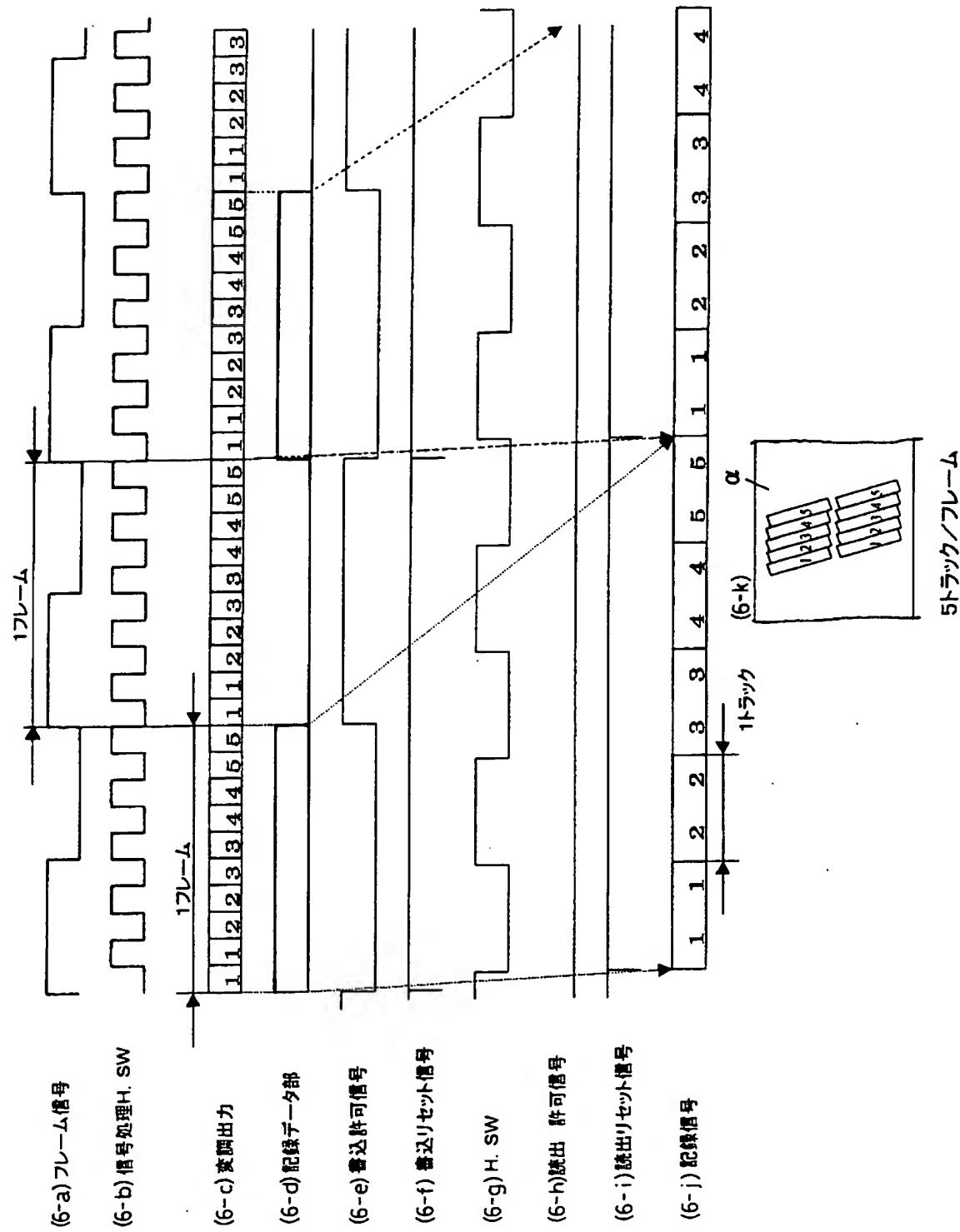
[図4]



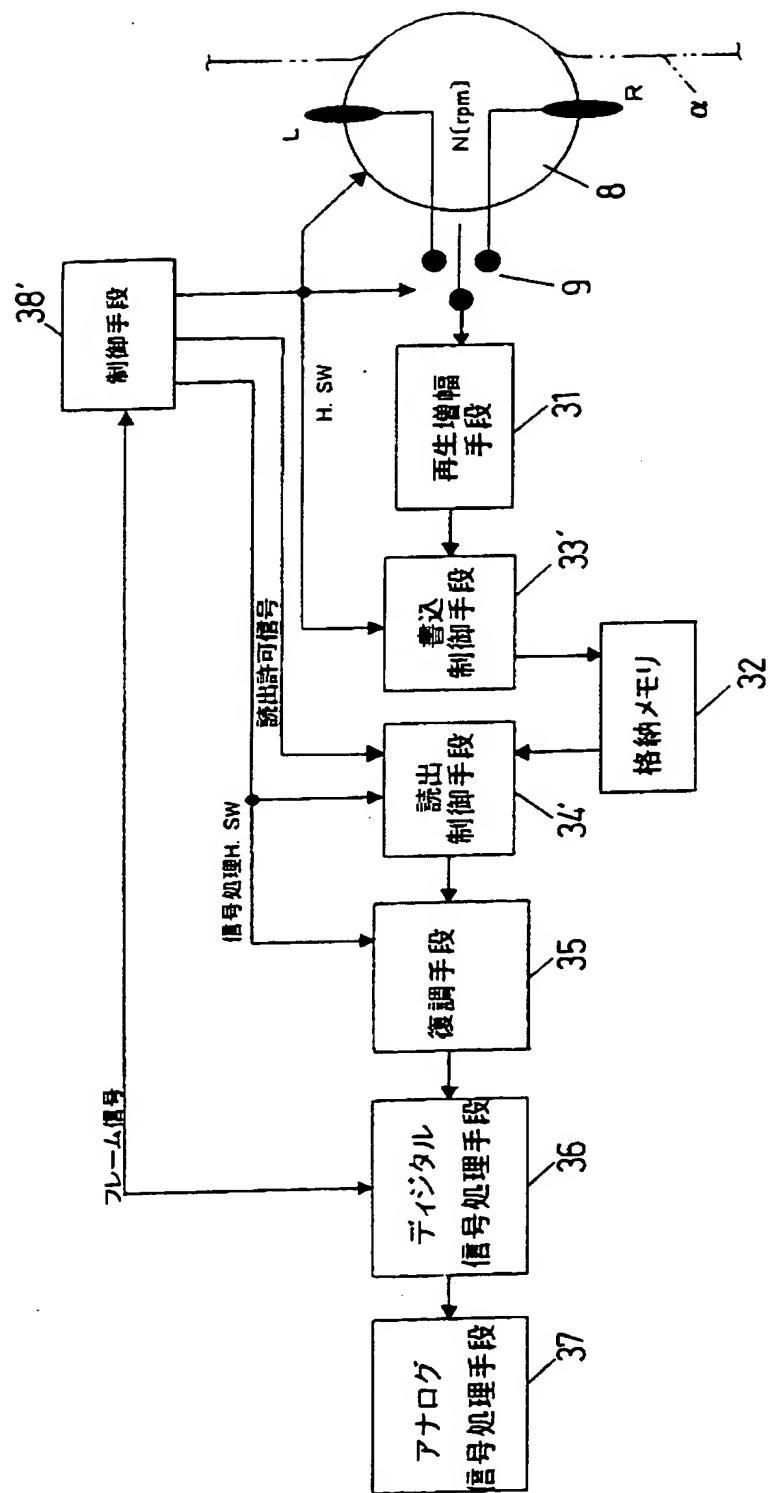
【図5】



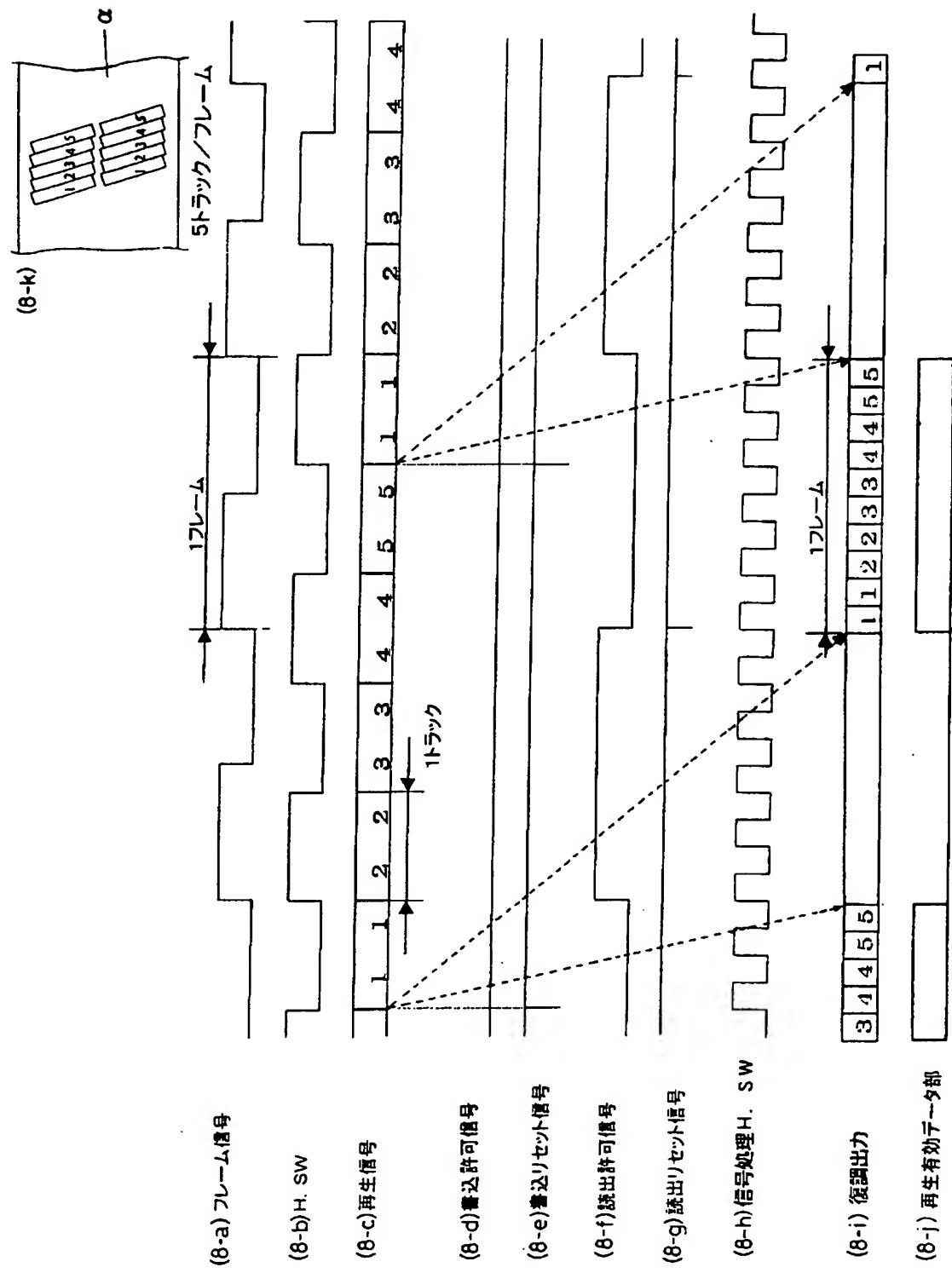
【図6】



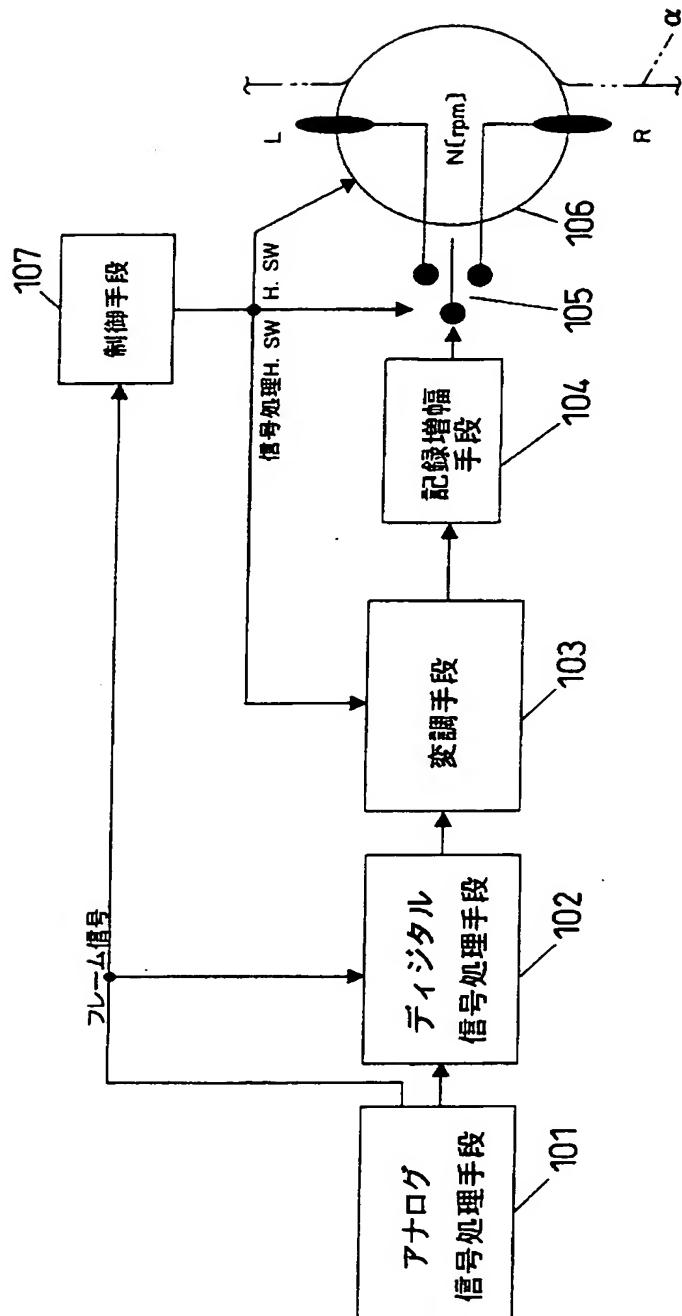
【図7】



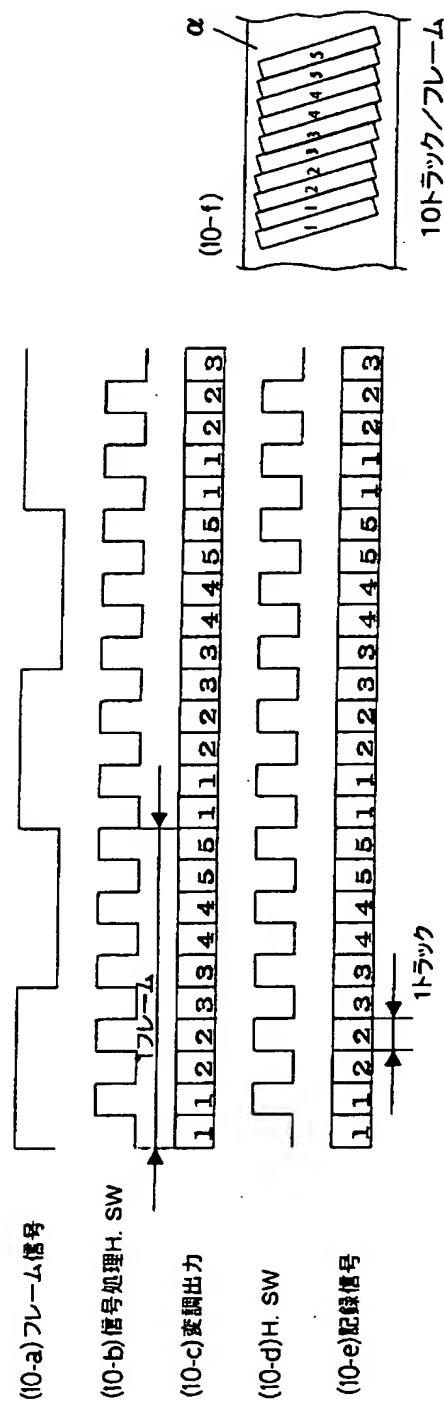
【図8】



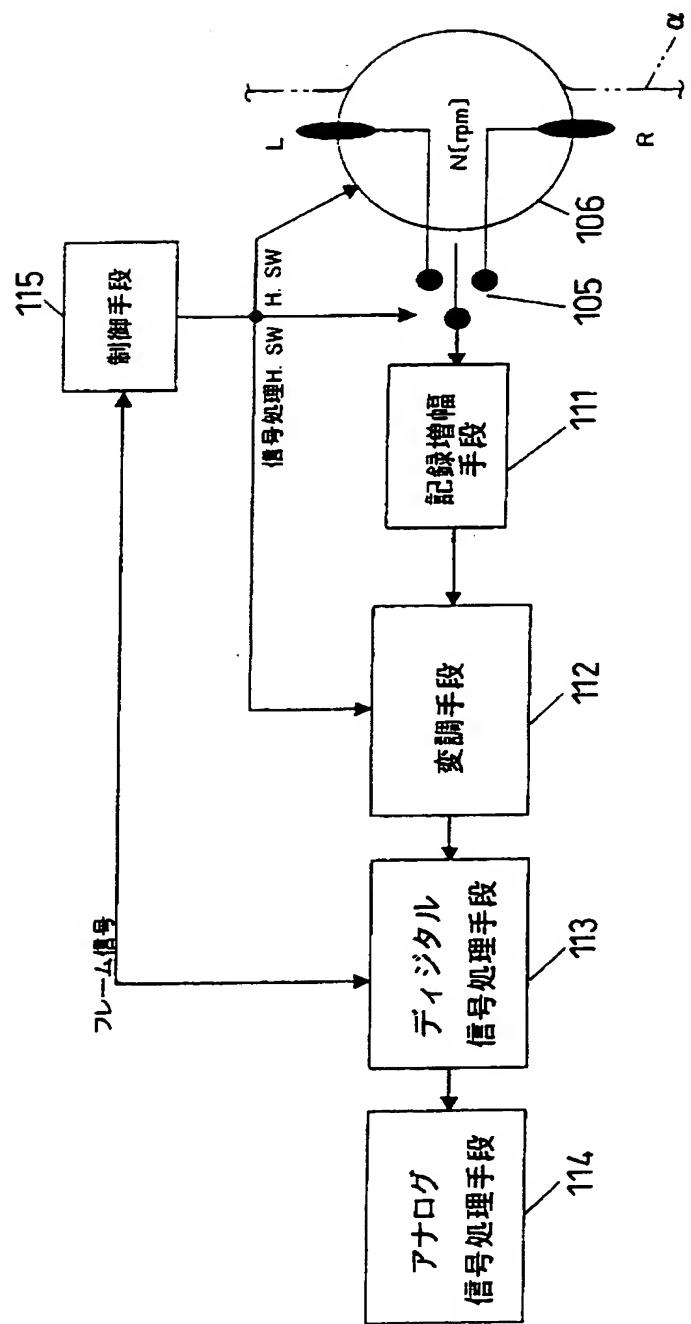
【図9】



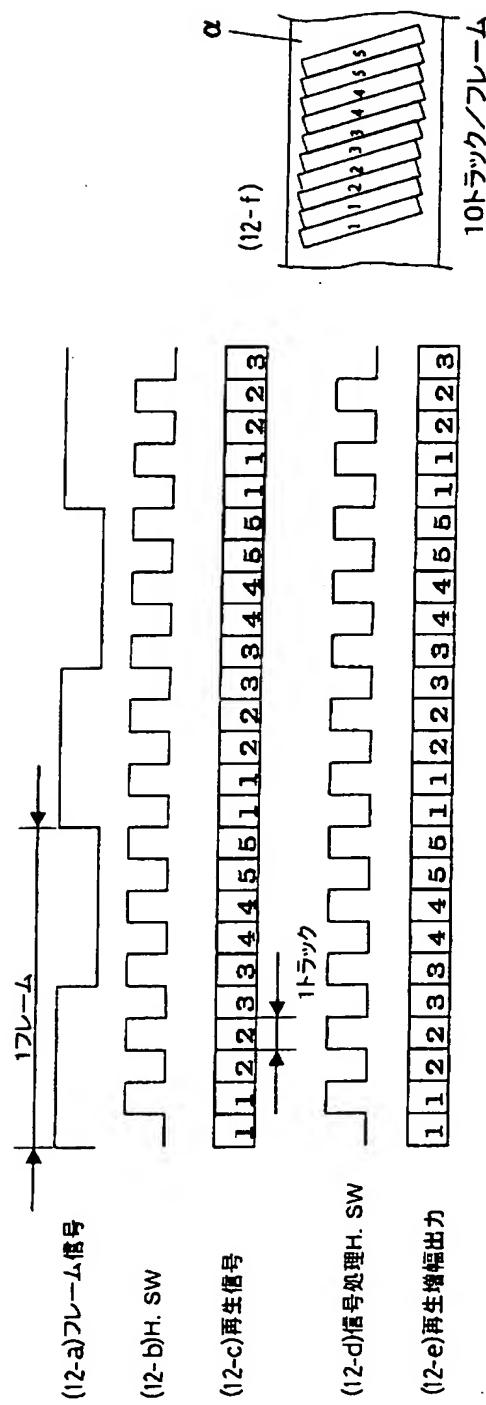
【図10】



### 【図 1 1】



[図12]



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 製造コストも安価で、メンテナンス費用も低く抑えることができるデジタル磁気記録再生装置の提供。

【解決手段】 入力信号変換手段1、2、3、10により、入力信号を、予め規定しておいた信号1区画当たりのトラック数に対応するタイミングで行う変調処理により記録用信号に変換したうえで、記録手段7、8、10により、前記変調処理でのタイミングに対応するシリンドラヘッド8の回転数より低い回転数でシリンドラヘッド8を回転させて記録用信号を記録テープ $\alpha$ に記録する。

【選択図】 図1

認定・付加情報

特許出願の番号 平成11年 特許願 第222587号  
受付番号 59900758853  
書類名 特許願  
担当官 第八担当上席 0097  
作成日 平成11年 8月10日

<認定情報・付加情報>

【提出日】 平成11年 8月 5日

次頁無

出願人履歴情報

識別番号 [000005821]

1. 変更年月日 1990年 8月28日

[変更理由] 新規登録

住 所 大阪府門真市大字門真1006番地

氏 名 松下電器産業株式会社